

P T A の 歌

春 田 紅 路 作詞
西 条 八 十 補詞
古 関 裕 而 作曲

B E F-7-5 F#7 B E F#7 B

は る か ぜ そ よ そ よ ふ く ま ど に こ と り も く る く る と ん で く る

F#7 F#7 B D#-7 G#-7 C#9 F#7 B7

あ か る い ま ー ど ー よ ほ ほ え む か お よ

E B F#7 B F#7

さ く ら の ー は な さ く は る の う た ー

B E D# B E F# B F#7 B

み ん な で い っ し ょ に う た お う よ

1

春風そよそよ 吹く窓に
小鳥もくるくる とんでくる
明るい窓よ ほほえむ顔よ
さくらの花咲く 春の唄
みんなでいっしょにうたおうよ

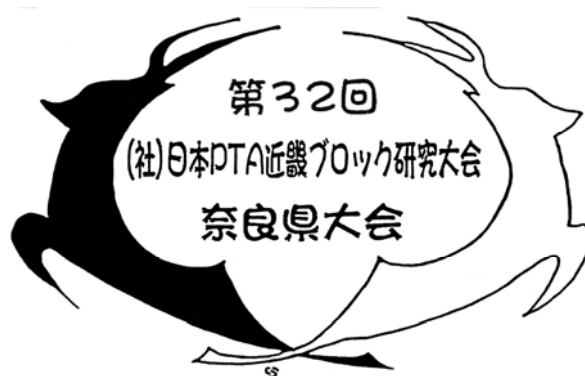
2

みどりに輝く 学校が
明るい家庭を よんでいる
希望の町よ 希望の村よ
文化の光に 手をのべて
子どもといっしょに 進もうよ

大会スローガン

大和からの発信！！

でっかい夢をもとう！ 翔ばたけ世界へ
～ 子どもと大人で輝く未来を創造しよう ～



目次

開 催 要 項	-----	2
あ い さ つ	-----	4
祝 辞	-----	7
大 会 日 程	-----	9
表彰状受賞者名簿	-----	11
大会委員役割分担	-----	13
分科会役割分担	-----	14
記 念 講 演	-----	15
分科会研究課題	-----	18
分科会発表内容		
第1分科会（組織・運営）	-----	19
第2分科会（生涯学習）	-----	24
第3分科会（人権学習）	-----	29
第4分科会（青少年健全育成）	-----	34
第5分科会（広報活動）	-----	41
特別分科会	-----	48
総 括 会	-----	54
大 会 宣 言	-----	56
平成18年度近畿ブロックPTA協議会理事名簿	-----	57
近畿ブロック研究大会開催地一覧	-----	58
近畿ブロックPTA協議会会則	-----	59
奈良県大会実行委員及び運営スタッフ	-----	61

平成 18 年度 第 32 回 (社) 日本 PTA 近畿ブロック研究大会 奈良県大会開催要項

1, 大会スローガン 大和からの発信！！

でっかい夢をもとう！ 翔ばたけ世界へ

～ 子どもと大人で輝く未来を創造しよう ～

2, 大会趣旨

急激に変化し、不透明感が強まる現代社会は、少子化ともあいまって、子どもや大人の意識と行動に大きな影響を与え、子どもも大人も「夢」をもてない憂慮すべき状況を醸し出しています。一方、各方面からは、PTA に寄せる期待は益々高まり、その果たすべき役割の大きさは増してきております。

そうした中で、私たち PTA は、『家庭はすべての教育の原点』であること、『学校・地域の連携の核』であることを自覚しなければなりません。そして、国際化・情報化の社会で、子どもとの未来（ゆめ）について語らうことを大切にし、子どもも大人も夢をもち、その実現に向かって切磋琢磨しながらたくましく生きる真の人間力の育成をめざさなければなりません。

“青丹よし奈良の都～”とうたわれたこの奈良の地で、21 世紀を担う子どもたちの健全育成に寄与することを願って本研究大会を開催いたします。

子どもたちがでっかい夢をもって世界へ翔ばたき、真に幸せを感じられる未来（ゆめ）を創造するための PTA 活動を見いだすため、「近畿は一つ」の名のもとに、各地の PTA 会員が一堂に集いました。

ここに、『でっかい夢をもとう！ 翔ばたけ世界へ』のスローガンを掲げ、21 世紀を担う子どもたちの健全育成に寄与することを願って本研究大会を開催します。

3, 主 催

(社) 日本 PTA 全国協議会 近畿ブロック PTA 協議会 奈良県 PTA 協議会

4, 後 援

文部科学省 奈良県・奈良県教育委員会 奈良市・奈良県市長会・奈良県町村会
滋賀県教育委員会 大阪府教育委員会 和歌山県教育委員会 兵庫県教育委員会
京都府教育委員会 大阪府教育委員会 神戸市教育委員会 京都市教育委員会
(奈良市教育委員会・県都市教育長協議会・町村教育長会)

5, 参加者

近畿ブロック PTA 会員 1, 800 人

6, 期 日

平成 18 年 11 月 8 日 (水)

7, 会 場

奈良県文化会館 新公会堂 ならまちセンター 奈良商工会議所

8, 参加費

1 人 3, 000 円 (資料費、昼食代を含む)

9, 日 程

9:00	9:30	10:00	12:20	13:40	16:00	16:40	17:20	17:30	19:30
受付	オープニング	全体会 開会式・表彰式・記念講演	昼食	分科会 1・2・4 会場	移動	総括会	移動	交流会	

※ 全体会には、手話通訳を依頼しています。

昼食	分科会 3・5・6 会場
----	-----------------

12:20 13:20

15:50

9, 記念講演

演 題 「親と子で見つめる^{ゆめ}未来」

講 師 青森大学教授、エッセイスト 見城美枝子（けんじょうみえこ）氏

10, 分科会

	領 域	研 究 課 題	会 場	担当府県	人 数
1	組織・運営	PTA活動に目的意識をもって進んで参加し、子どもの健全育成の核となって活動できる組織・運営はどうあればよいかを考える。	新公会堂	奈良県 神戸市	200人
2	生涯学習	子どもたちが、大きな夢をもち、ともに生き、ともに学び・育つことを支援のできる、力量を持った保護者になるための PTA 活動はどうあればよいかを考える。	新公会堂	京都府 大阪市	250人
3	人権教育	会員自らの人権感覚を磨くとともに、子どもたちの豊かな感性を育み、自他敬愛に基づく人間関係をきずき、たくましく生きる、人権と共生の世紀にふさわしい PTA 活動はどうあればよいかを考える。	奈良県文化会館	京都市 大阪府	250人
4	青少年 健全育成	家庭・学校・地域の連携のもと、子どもたちが国際人としてでっかい夢をもち、主体的な活動や自己実現に向けて自らの生き方を探求できる環境づくりや人間づくりをするための PTA 活動はどうあればよいかを考える。	ならまちセンター	奈良県 滋賀県	250人
5	広報活動	IT時代の現在、情報手段が多様化する中で、情報の共有と意識の高揚を図るとともに、会員に親しまれ、更には、子どもの健全育成に役立つ広報活動はどうあればよいかを考える。	奈良商工会議所	和歌山県 兵庫県	250人
6	特別分科 会	学校・家庭・地域が連携して、子どもたちの育成に寄与する PTA 活動は、どうあれば良いかを考える。 ～みんなで育てる 子どもの未来（ゆめ）～	奈良県文化会館	奈良県	600人

11, 総括 16時40分 ～ 17時20分 新公会堂 （会議室1・2）

12, 交流会 17時40分 ～ 19時30分 新公会堂 （レセプションホール）



ごあいさつ

近畿ブロック PTA 協議会
奈良県 PTA 協議会

会 長 藤野 良次

「青丹よし 奈良の都は 咲く花の 匂うが如く 今盛りかな」 青もよし、赤もよし、すべてがすばらしい奈良の都は、満開の梅が良い香りを放っているように、今真っ盛りでにぎやかなことよ、と万葉集に謳われたここ奈良の都は、710年に元明天皇によって藤原京から移され、784年に長岡京に移転するまで、約70年間日本の都でした。そんな古都奈良に近畿各地から多くのPTAの会員がお集まりいただき、心より感謝と歓迎を申し上げます。また本日、公私ご多忙にも関わりませず、県より橋本出納帳様、矢和多県教育長様、県議会より神田文教委員会委員長様、開催地の奈良市より中尾教育長様はじめ多くのご来賓の方々にご臨席を賜り、衷心より厚く御礼を申し上げます。

平素は子供たちを取り巻く環境の充実と私たちPTA活動に何かとご理解、ご協力を賜っておりますことに感謝と御礼を申しあげますとともに、今後も引き続きのご支援をお願い申し上げます。

社団法人日本PTA全国協議会、梅田昭博会長をお迎えし、第32回日本PTA近畿ブロック研究大会奈良県大会を開催するにあたりまして、約1300名の方々がこの国際ホールにご入場いただいております。さらに、300名の方々が小ホール、100名の方々が集会室、さらに150名の方々が3つの会議室にそれぞれご参加を頂いております。総数、1850名余りの方々に参加を頂いております。小ホール、集会室、会議室でご参加いただいております皆様におかれましては、モニターにおけるご視聴を頂いております。心よりお詫びを申し上げますとともに、それでもなおご参加を頂きました皆様に改めて感謝申し上げます、このように思う次第であります。

なお、講師の見城先生はこのモニター視聴でも講演をお断りされることなく、心暖かくお話をしていただきますので、梅田会長におかれましては安心して大会を見守って頂きたい、このように思う次第でございます。

さて、今日における急激な変化と不透明感が強まる現代社会において、いじめや不登校あるいは青少年犯罪の低年齢化など教育的課題が大きくクローズアップされております。特にいじめの問題では尊い命を自ら絶つという子どもが相次いでおり、社会に大きな衝撃と深い悲しみをもたらしています。ここで改めて教育の原点である家庭教育のあり方を問い直すとともに私たちは子育ての第一責任者であるということを再確認しなければなりません。そういった意味におきまして、子どもたちに対し夢や未来を託す私たち大人が日々の生活に、非常に煩雑なその中で希望や目標を見失っている気がいたします。大人の姿勢に非常に敏感な子どもたちが、そういった子どもたちに対して熱く熱く夢を語るためにまず私たち大人がしっかりと日々の生活に目標や希望をもち、改めてしっかりとそれに向かって生きていくことが大切であると考えます。今大会はそういった思いを込めて「大和からの発信！！でっかい夢をもとう！ 翔ばたけ世界へ 子どもと大人で輝く未来（ゆめ）を創造しよう」というスローガンを掲げさせて頂きました。どんな小さな夢や目標でもその子どもたちにとっての、でっかい未来（ゆめ）を大切に、私たち大人も改めて未来（ゆめ）をもちたくましく生きる子どもたちの育成を目指そう、そういった思いでこの大会を開催させて頂きます。どうか皆様方よろしく願いを申し上げます。また、この全体会に引き続き、お昼は目の前の奈良公園でお食事を摂って頂きまして、午後から各分科会、総括会、そして交流会にご参加頂きますようお願いを申し上げます。

現在、正倉院展が開催されておりますが、目もくれず真っ直ぐ会場へ向かって頂きたい。正倉院展へは改めてお越し頂くといことでよろしくお願い申し上げます。

本日の研究大会が子どもたちの夢、未来を展望できる一助となり、またより活発にPTA活動ができるきっかけとなることを切望いたしますとともに、最後になりましたが本大会の開催に当たりましてすべての方々、多くの方々にご協力を頂きました。改めましてこの場をお借りいたしまして、感謝を申し上げますとともに御礼ならびに歓迎のご挨拶とさせて頂きます。本日はどうかよろしく願いを申し上げます。



ごあいさつ

社団法人日本 PTA 協議会

会 長 梅田 昭博

朝夕めっきり肌寒くなり、野山の秋化粧も、これから一段と艶やかさを増し、深まりゆく秋を感じる頃となりました。一年中で最も落ち着いた心休まる時です。このような良い時節に、日本の歴史の中である時はシテ役、ある時はワキ役として、悠久な歴史の舞台上に登場し続け、有為転変の歴史を体験している唯一の地である奈良。また、人々の歩く道は古代人の踏み固めた山之辺の道であり、には飛鳥路には、万葉人の息づきさえ聞くことができる奈良にて、第32回社団法人日本PTA近畿ブロック研究大会・奈良県大会を、多くの会員の皆様のご参加を頂き、「でっかい夢をもとう！ 翔ばたけ世界へ」のスローガンを掲げ、21世紀を担う子どもたちの健全育成に寄与することを願って、盛大に開催できますことは、誠に喜ばしいことであります。心より御礼申し上げます。

また、本日、公務ご多用中にも関わらずご臨席を賜りました、奈良県出納長 橋本宏隆様、奈良県議会文教委員会委員長 神田加津代様、はじめ、多くのご来賓の皆様、高い席からではございますが厚く御礼申し上げます。

さて、秋の夜長に、久方ぶりに夏目漱石の「それから」という小説を読んでいましたら、「・・・・・・麵麴を離れ水を離れた贅沢な経験をしなくちゃ人間の甲斐はない・・・・・・」という一節に目が留まりました。このところは学生時代よりずっと気になっているところでもあります。

私たちは、今、PTA活動を行っています。もしかしたら、子どもたちは、私たちに贅沢な経験をさせてくれているのではないのでしょうか。そうであるならば、私たちは、子どもたちに、何か返さなくてはいけないのではないかと、思います。先日、テレビで知床の特集を見ておりましたら、命を次代に託すために、満身創痍になりながらも、全身全霊を込めて故郷の川を上る鮭の姿や、原生林の中で朽ち果てて苔むした倒木の上に生まれたトド松の若い芽に、生命の力強さや神秘、そして、次代への強い思いが伝わってきて、大変感動を覚えました。

同時に、とても大切なことを教えられたようです。

私たちも、次代を担う子どもたちに何かをしなくてはなりません。

それは、より質の高い豊かな社会を維持するために、子どもたちに、社会を生きていく上での基本的なことを、しっかりと教えることであると思います。

もとよりわが国は、資源に乏しく、あるのは「人材のみである」と言っても過言ではありません。より豊かで質の高い社会の維持には、人材の育成が不可欠であります。

そのためには、教育の充実が必要であり、今、教育改革が進められています。また、中央教育審議会で大いに議論も進められて来ました。

先般、新しい内閣が誕生し、教育を最重要課題に掲げ、教育改革を行う旨の発表がなされました。そして、教育再生会議が発足され、新たに教育改革について議論がなされようとしています。

しかしながら、「教育の原点は家庭」であります。このことを決して忘れてはなりません。今こそ家庭教育の充実が求められている時であります。

最近、全国で、いじめが原因で自らの命を絶つ子どもが相次いでおり、社会に大きな衝撃と深い悲しみをもたらしめています。何気ないその一言が、相手の心を深く傷つけます。相手を思いやる心をもっと持てば、このような悲しいことは起こらないであろうと思います。

作家の司馬遼太郎氏が「21世紀に生きる君たちへ」というエッセイの中で『『いたわり』『他人の痛みを感じる』『やさしさ』を身に付けることによって自己が確立されていくのであり、このことは、いつの時代になっても、人間が生きていく上で、欠かすことができない心構えというものである。』といったようなことを述べています。

この「いたわり」や「やさしさ」を子どもたちにしっかりと教えることがいじめ問題の撲滅に繋がるのではないかと、また、その他、広範多岐に亘る諸問題の解決にも繋がるのではないかと思います。

それには学校、家庭、地域或いは社会が、日々、それぞれの責任をしっかりと果たすことが大切であります。とりわけ教育の原点である家庭教育の充実是最も重要な課題であります。

先程も申し上げましたが、私たちがまず行なわなければならないことは、家庭教育の充実であります。そのためには、私たち自らがより高まらなくてはなりません。方法は色々ありますが、研修会などへ参加することも、大変良い方法であると思います。

様々な所で研修をすることはできますが、本研究大会は、広い見地からの研修が行え、近畿ブロックPTAにおいては最大の研修の場であります。

本大会において得た果実を持ち帰っていただきまして、ご自分で消化していただき、さらに昇華していただきたいと思います。必ずや、私たちの今後の活動の糧や、「子どもためになる。」と確信します。

結びになりますが、本大会を開催するにあたりまして、近畿ブロックPTA協議会の皆様をはじめ、奈良県PTA協議会の皆様、とりわけ実行委員会の皆様のご努力に対しまして、敬意を表しますとともに関係諸機関の皆様方のお力添えに、心より厚く御礼申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。



祝 辞

奈良県知事

柿本 善也

近畿各地から２０００名を超えるＰＴＡ会員の皆様方がご参加され、第３２回社団法人日本ＰＴＡ近畿ブロック研究大会奈良県大会が盛大に開催されますことをご喜び申し上げますとともに、ご来県を心から歓迎いたします。皆様方には日頃からそれぞれの地域でのＰＴＡ活動を通じ、学校・家庭・地域社会を結ぶ架け橋となり、次世代を担う青少年の健全育成にご尽力を賜っておりますことに対し心から深く敬意を表する次第です。

さて、今日情報化、国際化、少子高齢化等の進展により子どもを取り巻く社会環境が大きく変化しております。このような中で一人一人の子どもを心豊かで健康に育てていくことは私たち大人に課せられた重要な責務であります。こうした中、学校においては人間形成の基礎を培うため基礎学力の習得とともに個性を生かす教育の充実を図ることが期待されております。その一方で家庭においては幼児期から基本的な生活習慣を付け、心豊かに成長することが望まれており地域社会での様々な活動を通じてより豊かな社会性を身に付けることも求められております。

奈良県におきましては今年３月に奈良県の３０年後の道しるべとなる、大和２１世紀ビジョンを策定いたしました。この中で学びの分野においては子どもたちが基礎学力や体力だけでなく、様々な体験を通して社会性を身に付けるための取り組みや子どもたちが個性や能力を伸ばし、社会で活躍できる人材となるための多様なシステム作り、更には社会に出てからも生涯わたって学習できる環境作りなどの施策を進めております。また４年後の西暦２０１０年には平城京の誕生から１３００年という節目の年を迎えます。これを記念し美しい日本、始まりの奈良を合言葉に歴史文化との対話と交流をテーマに平城遷都１３００年記念事業を実施いたします。この事業のシンボルとなる平城旧跡第１次太極殿の復元が進められております。せっかくの機会でございますので是非時間の許す限り平城旧跡の散策もしていただければと思います。

結びに、本大会の開催にあたり多大のご尽力を賜りました関係者の方々に敬意を表しますとともに本大会のご成功と皆様方の今後ますますのご健勝、ご活躍さらには近畿ブロックＰＴＡ協議会のますますのご発展をお祈り申し上げお祝いの言葉といたします。



祝 辞

奈良市長

藤原 昭

この度、第32回(社)日本PTA近畿ブロック研究大会奈良大会が、盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。近畿各地よりご参加の皆さま、「世界遺産に学び、ともに歩むまち一なら」にようこそおいでくださいました。奈良市民を代表し、皆さまのご来寧を心から歓迎申し上げます。

私たちの奈良市は、先人達がこの地に平城京の壮大な都造りを進め、物質と精神の調和と統一を具現した天平文化の華を咲かせたことにその礎があります。その後も奈良は、社寺の都として新たな発展をとげ、私たちの祖先は豊かな歴史と文化を築き守ってきました。奈良市民はこのことに深く思いを致し、日本文化の伝統と民族の文化遺産を市民生活の中に活かしながら、日本人の心のふるさと奈良のまちづくりを進めております。

本大会が、日本人の心のふるさと奈良で開催され皆さまが一堂に会されますことは、教育を巡る各種の問題が噴出する現在、日本文化の伝統に思いを致す意味でもまことに意義深いものがあると感じております。PTAの皆さまは、日頃から子ども達の最大の理解者として、家庭と学校・園を結ぶ重要な立場に立ち、子どもたちに豊かな人間性を育むために地道な活動を積み重ねながら、日々研鑽と努力を重ねておられることに対しまして、この場をお借りして深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

今後も、少子化・核家族化の進行により、子どもたちを取り巻く社会・教育環境は、激動と困難さを増していくものと懸念されます。このような世情の下に在って、PTAの皆さまの存在意義は今後ますます重要性を増していくものとご期待申し上げます。

奈良市では、市政遂行に当たっての基本理念の一つとして「安全で安心な夢のある街づくり」を提唱しておりますが、街づくりの原点は、近隣社会のコミュニティにあると考えており、子どもたちが安全・安心に伸び伸びと成長できるコミュニティの再生を目指しております。この視点から、現在策定を進めているのが「夢・教育プラン」でございます。このプランの推進には、何よりも保護者の皆様方のご協力が必要不可欠であり、そういった意味でもPTAの皆様方のご活躍に大いにご期待申し上げます。

結びにあたり、本大会のご成功と近畿ブロック協議会の今後ますますのご発展並びに本日ご参集の皆さまのご健勝とご活躍をご祈念申し上げ、お祝いと歓迎の言葉とさせていただきます。



大会日程



全 体 会

奈良県文化会館 国際ホール

	(司 会)	奈良県PTA協議会副会長	福中 眞美
9 : 0 0	受付開始		
9 : 3 0	オープニングセレモニー	朝和幼稚園 (天理市)	
1 0 : 0 0	開会の辞	近畿ブロックPTA協議会副会長	岡田 隆彦
	国家斉唱		
	PTAの歌 (2 番まで)		
	開会挨拶	奈良県PTA協議会会長	藤野 良次
		日本PTA協議会会長	梅田 昭博
	祝 辞	奈良県知事	柿本 善也
		奈良市長	藤原 昭
	来賓・主催者紹介		
1 0 : 4 0	表彰状贈呈		
1 1 : 0 0	大会宣言・決議	近畿ブロックPTA協議会理事	
		大会宣言起草委員長	森脇 勝彦
1 1 : 0 5	閉会の言葉	奈良県大会実行委員長	玉井 久勝
1 1 : 1 0	記念講演		
	演 題 「親と子でみつめる未来 (ゆめ)」		
	講 師 青森大学教授 エッセイスト 見城美枝子氏		
1 2 : 1 5	花束贈呈	奈良県大会副実行委員長	岩本 寿成
1 2 : 2 0	連絡事項・分科会会場への移動		

昼 食

弁当配布場所	第1分科会・第2分科会の参加者	新公会堂	エントランスホール
	第3分科会の参加者	奈良県文化会館	
	特別分科会の参加者	//	
	第4分科会の参加者	ならまちセンター	
	第5分科会の参加者	奈良商工会議所	5 階ロビー

分 科 会

第1分科会	組織・運営	新公会堂 第1・2会議室
第2分科会	生涯学習	新公会堂 能楽堂ホール
第3分科会	人権教育	奈良県文化会館 小ホール
第4分科会	青少年健全育成	ならまちセンター 市民ホール
第5分科会	広報活動	奈良商工会議所 大ホール
特別分科会		奈良県文化会館 国際ホール

13:20	3・5・特別分科会開会
13:40	1・2・4分科会開会
	運営責任者挨拶
	発表者・助言者等紹介
	実践発表
	研究討議
	分科会まとめ（指導・助言）
15:40	3・5・特別分科会感謝状贈呈
15:50	〃 閉会挨拶
16:00	1・2・4分科会感謝状贈呈
16:10	〃 閉会挨拶

総 括 会

	新公会堂 会議室1・2	
	（司 会） 奈良県大会副実行委員長	日高 初美
16:30	受付開始	
16:40	開会挨拶 近畿ブロックPTA協議会会長	藤野 良次
	大会総括助言 奈良県教育委員会生涯学習課課長補佐	戸田 忠志
	社団法人日本PTA全国協議会より感謝状	
	次期開催地へ近P旗引継ぎ及び次期開催地代表挨拶	
17:20	閉会挨拶 近畿ブロックPTA協議会副会長	坂口 一美

交 流 会

	新公会堂 レセプションホール	
	（司 会） 橿原市PTA連合会	村上 章余
17:40	開会挨拶 奈良県大会実行委員長	玉井 久勝
	日本PTA全国協議会会長	梅田 昭博
	来賓祝辞 奈良県議会文教委員会委員長	神田 加津代
	乾 杯 近畿ブロックPTA協議会顧問	叶 貞二
	歓 談	
	アトラクション わたぼうしコンサートと語り部	
	歓 談	
19:30	閉会挨拶 近畿ブロックPTA協議会会長	藤野 良次

第32回 日本PTA近畿ブロック研究大会

奈良県大会 表彰状受賞者名簿

Ⅱ 団体の部

府県市名	1	2	3
滋賀県	りつとうし 栗東市PTA 連絡協議会	こうかし 甲賀市立 さやま 狹山小学校PTA	
大阪府	しまもとちょう 島本町立 だいいち 第一中学校PTA	とよなかし 豊中市立 ほたるがいがいけ 蛸池小学校PTA	
和歌山県	きみのちょう 紀美野町立 はせけはら 長谷毛原中学校中生会	わかやまし 和歌山市立 くすみひがし 楠見東小学校育友会	
兵庫県	あまがさきし 尼崎市立 そのだひがし 園田東小学校PTA		
京都府	じょうようし 城陽市立 との 富野小学校PTA	やましるちょう 山城町立 たなくら 棚倉小学校PTA	
大阪市	おおさかし 大阪市立 なかみち 中道小学校PTA	おおさかし 大阪市立 だいいりょう 大領中学校PTA	
神戸市	こうべし 神戸市立 おおぞう 大沢小学校PTA	こうべし 神戸市立 たかしょう 鷹匠中学校PTA	
京都市	きょうとし 京都市立 めいしん 明親小学校PTA	きょうとし 京都市立 かたぎはら 檜原中学校PTA	
奈良県	おうじちょう 王寺町立 おうじ 王寺小学校PTA	いこまし 生駒市立 いこまきた 生駒北小学校PTA	かつらぎし 葛城市立 はくほう 白鳳中学校PTA

Ⅲ 個人の部

滋賀県	大阪府	和歌山県	兵庫県	京都府
あんどう ひろし 安藤 博	やまだ まゆみ 山田 満由美	かじの ゆみ 梶野 有美	まえだ やすお 前田 保雄	うえむら 植村みさ代
よしだ やすひろ 吉田 泰啓	おおはた よしひろ 大畑 至弘	おくやま あきひろ 奥山 昭博	かつもと じゅん 勝本 順	にしむら りゅうじ 西村 龍二
くが きょうこ 久我 京子	なかの まり子 中野 まり子	かねや まり 金谷 真理	け ど あきこ 毛戸 明子	おおにし さとる 大西 聡
ほりぐち あきこ 堀口 明子	おだ さゆり 小田 さゆり	たかだ よしかず 高田 由一	いっしき いく 一色 郁雄	まわたり みえ 馬渡 美江
おおすみ てつお 大隅 鉄男	おがわ かずよ 小川 和世	しまだ しゅうじ 嶋田 周司	たなか かずあき 田中 和明	とおやま そのえ 遠山 園栄
なかつか やすひこ 中塚 靖彦	やました まさひこ 山下 雅彦		かたおか さわ子 片岡 さわ子	やまだ ただし 山田 正
まきうち ともみ 牧内 知美	ふくおか まさこ 福岡 雅子		いけだ かずき 池田 和揮	きたがわ あきのり 北川 昭典
なんぶ けいこ 南部 恵子	はら せいじ 原 清治		やまぐち ひろし 山口 浩	おくぐも なおみ 奥雲 直美
			なかむら ひとし 中村 仁志	
			よねだ かずや 米田 一也	
			もりた としかず 森田 俊和	
			わたべ かずよ 渡部 和代	

大阪市	神戸市	京都市	奈良県	
く め い たかお 久米井孝夫	はらだ ゆきお 原田 幸男	いまたか り か 今鷹 理夏	いわもと ひさなり 岩本 寿成	
おくの たつお 奥野 達夫	おがわらかずひろ 小河原和宏	ひらふく なぎさ 平福 なぎさ	よしかわ たかよ 吉川 敬代	
さんや ひさかず 山野 寿一	たにぐち しょうじ 谷口 昭治	くわた ゆみ 桑田 ゆ美	まつしま ひでのり 松嶋 秀典	
まるやま としみ 丸山 敏美	た お しんぞう 田尾 晋三	ほりうち やすひろ 堀内 康弘	おかもと ま す み 岡本 真寿美	
すぎもと まさゆき 杉本 正之	くろかわ ま ゆ み 黒川 真由美	にしに まゆみ 西谷 真弓	たごう つよし 田合 豪	
やまぎわ としひろ 山際 敏広	あかば のりこ 赤羽 規子	はしもと なおき 橋本 尚樹	みやがわ ともふみ 宮川 朋史	
にしの ゆきみ 西野 幸美	ふじた まさみ 藤田 雅美	にしひさまつよしお 西久松吉雄	くろだ ひさし 黒田 尚志	
ながた さとし 永田 智志	の だ み ち よ 野田 美千代		ひだか はつみ 日高 初美	
			しま そうじろう 島 壮二郎	



大会委員役割分担



大会会長 藤野 良次
大会副会長 岡田 隆彦

坂口 一美

府縣市	総務委員 (近P理事)	大会委員	大会宣言起草委員	資料作成委員
滋賀県	岡田 隆彦 小巻おさみ	石本 高之 富本 安計 橋本真由己	岡田 隆彦	田中 伸芳
大阪府	坂口 一美 松田 頼告	花田 純子 乾 実千穂 坂田 信雄	坂口 一美	有田 義昌
和歌山県	森脇 勝彦 寺村 多喜	山田 博章 土井 淳宏 山田 英之	森脇 勝彦	狭間 勇人
兵庫県	平良 一夫	前田 保雄 勝本 順 一色 郁雄	平良 一夫	堀内美智子
京都府	竹田 隆司 村松 恵子	塩尻 知己 和田 隆文 近藤 茂雄	竹田 隆司	保田 剛毅
大阪市	西岡 義治 坂根 裕子	伊藤 隆行 中島 康介 平井さより	西岡 義治	坂元 健一
神戸市	志水のりこ 今田 学志	佐脇 洋平 瀬尾 和志 金井 賢二	志水のりこ	岸本 隆昌
京都市	山名 裕 四方 有紀	森田 眞利 寺石 浩隆 西川 美佐	山名 裕	大澤 勇
奈良県	藤野 良次 吉川 敬代	西川 隆清 田合 豪 音田 美幸	藤野 良次	橋本佳壽夫



分科会役割分担



	発表者	司 会	助言者	記録者	運営・会場責任者
1 組織・運営	佐脇 洋平 成徳小学校PTA会長 神戸市立小学校PTA 連合会会長 ----- 緒川 恵 奈良県北葛城郡王寺町立 王寺小学校PTA会長	志水のり子 神戸市PTA協議会 会 長	大村桂治郎 神戸市教育委員会 社会教育部生涯学習課 指導主事 ----- 辻本 雄一 奈良県教育委員会 生涯学習課主査	野村由紀夫 上牧町立上牧中学校 教 頭 ----- 本多 敏人 王寺町立王寺中学校 教 頭	(運営責任者) 今田 学志 神戸市P協議会副会長 (会場責任者) 大前 益己 奈良県PTA協議会
2 生涯教育	東 直彦 京都府京丹後市立 間人中学校PTA会長 ----- 谷口 幸子 大阪府大阪市立 安立小学校PTA書記	竹田 隆司 京都府PTA協議会 会 長	中村 忠孝 京都府教育庁指導部 社会教育課教育主事 ----- 叶 貞二 近畿ブロックPTA協議会 顧 問	早川 佳仁 組合立式下中学校 教 頭 ----- 田畑 榮一 三宅町立三宅小学校 教 頭	(運営責任者) 西岡 義治 大阪市P協議会会長 坂根 裕子 大阪市P協議会副会長 (会場責任者) 古川作奈江 奈良県PTA協議会
3 人権教育	藤尾 まさよ 京都府京都市立 皆山中学校PTA会長 ----- 坂田 信雄 門真市PTA協議会会長	松田 頼告 大阪府PTA協議会 副会長	古田 義久 京都市教育委員会 首席社会教育主事 ----- 柏木 康夫 門真市教育委員会 社会教育部社会教育課課長	森 正男 大和高田市立 高田西中学校教頭 ----- 玉井 章進 大和高田市立 高田中学校教頭	(運営責任者) 山名 裕 京都市P連絡協議会会長 四方 有紀 京都市P連絡協議会 副会長 (会場責任者) 中村 久雄 奈良県PTA協議会
4 青少年健全育成	中島 千佳子 奈良県葛城市立 白鳳中学校PTA副会長 ----- 平川 正子 滋賀県草津市立 玉川中学校PTA会長	小巻おさみ 滋賀県PTA 連絡協議会 副会長	島田 裕司 奈良県福祉子ども家庭局 青少年課係長 ----- 北島 泰雄 滋賀県教育委員会 生涯学習課主査	坪内 正之 葛城市立忍海小学校 教 頭 ----- 上田 喜彦 御所市立大正中学校 教 頭	(運営責任者) 村松 恵子 京都府PTA協議会副会長 (会場責任者) 辻村美智子 奈良県PTA協議会
5 広報活動	上野山 栄作 和歌山県有田川町立 藤並小学校育友会会長 ----- 三輪 剛敏 兵庫県三田市立藍中学校 PTA前会長 「兵庫県PTA」紙前編集委員	平良 一夫 兵庫県PTA協議会 会 長	能代 卓夫 和歌山県教育庁生涯学習局 生涯学習課地域教育班 社会教育主事 ----- 色波 亨 兵庫県教育委員会 社会教育課指導主事	尾上 清男 曾爾村立曾爾小学校 教 頭 ----- 山本 博文 桜井市立 大三輪中学校 教 頭	(運営責任者) 森脇 勝彦 和歌山県PTA連合会会長 寺村 多喜 和歌山県PTA連合会副会長 (会場責任者) 井岡 省悟 奈良県PTA協議会
6 特別分科会	テーマ：「学校・家庭・地域の連携による子どもの育成」 ～みんなで育てる子どもの未来（ゆめ）～ 基調講演：「子どもを育てるみんなのまなざし」 ～教育の連携の基本原理～ 講師：豊田弘司氏（奈良教育大学教授） パネルディスカッション 司会・コーディネーター：豊田弘司氏 パネラー：西川隆彰氏・水野賢太郎氏・河合孝信氏 安田美紗子氏・峯本信子氏			本田 善藤 大和郡山市立 郡山南中学校教頭 ----- 當麻 正巳 大和郡山市立 郡山西中学校教頭	(運営責任者) 吉川 敬代 奈良県PTA協議会副会長 (会場責任者) 澤田 昌憲 奈良県PTA協議会



演題

「親と子で見つめる未来」
ゆめ

けんじょうみえこ

見城美枝子さん 青森大学教授・エッセイスト

【講演要旨】

私は中央教育審議会の生涯学習部会の中の家庭教育分科会に所属しており、大会長の藤野会長とご一緒しております。そのご縁もあって今回お招きを頂きました。今日は、大勢の皆さんが子どもたちのためにどうしたらよいのかということでお集まりですから、こうすれば良いと言えればよいのですが大変難しい問題です。いろいろな問題を一つ一つ考えるのではなくて、今日を生きる子のために私たち親や地域がやるべきことがあるはずだという思いを込めて「親と子で見つめる未来（ゆめ）」というテーマでお話をさせていただきます。

子どもを取り巻く現状は、イジメやそれが原因で起きる自殺が頻繁に起きていることです。もしかすると事件を報道することによって自殺を誘発させているのかもしれない。私たちは報道（メディア）の影響を受けながら生きています。報道（メディア）の世界は秒単位で進行しますから短絡的・衝撃的にならざるを得ません。つまりゆっくりと解き明かす時間がないのです。私たちは事件が起きるとテレビや新聞、インターネットなどから大量の情報を入手することになります。ここで親に必要なことは「メディアリテラシー」です。『メディア（媒体）、リテラシー（情報を分析する力）』 この能力がないと子どもたちに正しい指針を与えられなくなります。プロパガンダがわかりやすい例です。独裁社会の君主はメディアを押さえることによって人民を自分の思うようにコントロールしようとします。ですからメディアは中立を保つ必要がありますし、私たちもメディアをチェックしなければいけません。情報を得たらそれを分析し、評価して得た情報を自分のために生かせる形にしなければいけません。今までは一定の尺度を持って情報と接することができましたが、現在、今までの尺度が通じない「ネット」というものが現れてきました。「ネット」が子どもたちに対してどのような影響を与えるのかが大きな問題になっています。少なくとも親はこういった社会が到来したことを理解しなければいけません。「ネット」は大変自由です。良いことも悪いことも自由なのです。現実社会（シティズン）とネット社会（ネティズン）、この両方の世界に子どもたちは身を置いています。だから大人は子どもを見守りながらアドバイスやサポートをしていかなければならないのです。子どもと大人で輝く夢を創造していくためには、この関係を理解することが大切なのです。

現状のもうひとつは、防犯ビジネスが学校に入ってきたということです。子どもが巻き込まれる事件が多発したことによって、例えばGPSが付いたタグの入ったランドセルを子どもに買い与えなければ安心できなかったり、学校に目を向ければ、数年前までは外に向かって開かれた場所であったのが、今では身分証などでチェックされたり、名前を書かされたりするようになっていきます。子どもたちを取り囲む状況が激変したのです。「子どもを地域の顔も知らない人に委ねられない」という意見が出たりしています。学校・家庭・地域の三本柱がうまく機能しているのでしょうか？私の四人の子どもたちは地域の方々に育てて頂きました。本当に良くして頂いたと感謝をしています。そういった時代はあっという間に変わってしまいました。私は講演の時に自分がお世話になった近所のことを話していて空しくなることがあります。街の中から商店街が消えてしまったのです。昔の子どもたちは小さい頃から商店街の人に顔や名前を覚えてもらい、見守ってもらっていたのです。私の子どもが小学校に入学するときなどは、お店の人に「この子が困ったときはよろしくお願いします」と、頼めたのである。これは子どもが実社会（シティズン）に歩みだしたということなのです。商店街が無くなるということは、近所の崩壊であり、地域の顔が見えなくなるということなのです。そんな状況では子どもを他人に託すことはできない

のです。教育問題の会議の中で学校・家庭・地域の名前が頻繁に出てきますが、皆さんの地域ではどうですか？ 自分たちの地域の変化を知るとはとても重要なことです。例えば、近所の商店が無くなるとちょっとした買い物でもよその地域のお店に買いに行くことになります。つまり地元の地域との関わりがそこで切れてしまうことになるのです。こういったことの替わりに出てきたのが公園デビューではないでしょうか？ ここでしか近所と触れ合うことができないからイジメはここから始まったりするのです。そして公園には社会の目がそれ程多くないので、ここで起こったイジメは拡大したり、陰湿になったりするので、母親としてはとても心配になるのです。大事なことは地域から壊れたり、無くなったりしたものの替わりに何が現れたのか、新しく生まれたものがどんなものなのかをよく知らない、子どもが小学校に入った頃からイジメが始まるのではなく、それ以前にすでに始まっているのだということを私は訴えたいのです。PTAの活動として保育園や幼稚園の母親と連携することで小学校への道筋を付けるということが重要ではないかと思います。

次に、非行のデータから読み取れることは、非行に走る子は、忍耐力と感情のコントロール、モラルという三つの要素が欠如しているということです。人と接しない、接することができない、人に育まれていないことに原因があるようです。最近の人はボックス化されているのではないのでしょうか？ワンルームマンションというボックスとコンビニというボックスと職場というボックスがあれば生きていける、というような状況にあります。他の人が入れない世界を築いたりしています。コンビニは大勢の人が出入りしますが会話（コミュニケーション）が存在しません。人と会話したり接することによって礼儀を知ったり、お金のありがたさを知ったりして人に育まれていくのですが、最近はそういうことが無くなってしまいました。カラオケボックスや漫画喫茶、インターネットカフェなども同じようなものです。こういうボックス化ということが人に育まれるということを阻害するのです。忍耐力と感情のコントロール、モラルの基本は、会話（コミュニケーション）です。こういった人の目の届かないところに籠もることによって、モラルハザードが崩れてしまいます。こういうところで行われる密事は悪いことに決まっていますから、ボックス化をどうするかが問題なのです。

私は日本医師会の禁煙プロジェクトの委員をやってきました。この委員会には卒煙プロジェクトがありまして、中には小学校の五年生でこのプロジェクトを受ける子がいるそうです。喫煙するとニコチン中毒になりタバコをどうしても吸いたくなります。タバコを買えるうちはまだ良いのですがお金が無くなると友達を脅したり、万引きしたりして非行に走るようになります。若いうちは体があまり犯されていないので早く治ることもあるそうです。また飲酒も子どもには良くないことです。早くから飲酒の習慣があると、自分をコントロールすることができなくなって最後にはアルコール中毒になるかもしれません。興味本位で始めるシンナー吸飲も体に大変悪いものです。シンナーは脳を溶かしてしまうからです。若い頃にこの中毒になると若年性の認知症になってしまいます。

子どもたちの体と精神の健康のバランスがとれていることが大切です。このことに私たち大人がどう関われるかがとても重要です。大人ができることは、自分の子でも他人の子でも同じように「育てる」ということです。子どもは母親が産んだと思うのではなく、授かったと思えば、大事にするはずで、産んでやったと思えば子どもを叱る方向に行くけれど、授かったと思えば褒めたくもなるし、感謝もする。そこが大事なことです。私はよその子どもでも褒め言葉をかけるようにしています。

PTAの活動をするということは、自分自身がいろいろな人と触れ合うということで、地域の人にも参加してもらうことによってもっと多くの人と関われるということです。これが「参加する」ということです。幼稚園や保育園は顔見知りの近所の方にバザーや運動会などへ参加をしてもらって、知り合いの輪をもっと広げてもらえるようにすることが重要です。参加の方法はこれ以外にもいろいろあるはずです。私はこのような行事を行うことにPTAの皆さんの協力と活躍を期待しています。もしPTAを卒業していたらOBとして参加したり、現役のPTA会員はOBの方にも声をかけて参加してもらえるようにする工夫が大切です。

「育てる」の次は「生きている実感」をもつということです。どうやったら自分が生かされている実感をもてるかということです。人はどうして生きているのだろうかということを考えるきっかけをどう作るかが問題です。やるべきことは日常生活の中にたくさんあります。大人も子ども

も自然と触れ合うことが大切です。

「感謝」私は、子育ては子食べさせとを考えています。いつでもご飯は炊けているから帰っておいでという生活をしてきました。ただし、子どもには規則正しく食事を食べる習慣をつけさせ、食べたいからいつでも食べるということはしませんでした。

「礼儀」姿勢を正しくして食べることも大切です。「頂きます」から始まって「ごちそうさま」で終わります。お箸の持ち方もきちんとします。「生きていたもの」を食べることの感謝の気持ちとありがたさを知る必要があります。「衣食足りて礼節を知る」という言葉があります。食事のテーブルの近くにはテレビを置かないようにしましょう。食べるときはみんなで食べましょう。私の子どもは祖母と暮らすことでお年寄りへの感謝とか優しさを肌身で感じながら生活をしていました。家族のあり方は百人百様であるから、これしかないということはありません。それぞれの家庭で何ができるかを考えましょう。

家庭の中での役割分担についてお話をします。私は昔イジメられました。母はイジメていた子を「かわいそうに」と言いました。愛されて育ててもらっていないから人をイジメたりするのだと教えられました。子どもが夢を持って自分のプライドをきちんと保っていけるような存在になるように親に育ててもらっているのでしょうか？そういう育て方をする親が存在するのでしょうか？現実を子どもに見せられる親の言葉があるのでしょうか？理想をしっかりと作ってくれて、現実を見せてくれる人、昔からの日本の善悪を説話で教えてくれる人、こういう大人が家庭の中に必要なのです。もしそういう大人が側にいないのであれば、学校やPTA、地域の人と一緒にになってその役割を担っていかなければなりません。

子育てを通して自分が考えたことは、家で良くしゃべる子に「キレる子」はいないというデータが出ています。あまり話さない、また全然話さない子の半分は「キレる子」になるそうです。朝食を食べない子、又はあまり食べない子も半分近くが「キレる子」になる結果が出ています。イジメる子もイジメられる子も「キレ易い」と自分で言っています。イジメるとイジメられる関係の中に「お互いにキレやすい」という合言葉があります。これがイジメの解決策のヒントになるのではないのでしょうか。子どもがこうならぬようにするのが大人の役目ではないのでしょうか？

「腹」清水寺に体内巡りというものがあります。清水寺の随求堂の本尊、大隋求菩薩（お母さん仏）のことをサンスクリット語で「ハラ」というそうです。この「ハラ」がもう一つのキーワードになるのではないのでしょうか。お母さんの「お腹の中」（ハラ）から子供は生まれてきました。子どもが元気いっぱい遊んだ「原（ハラ）っぱ」がだんだん無くなっています。そして「太っ腹（ハラ）の大人」も少なくなってきました。誰かひとりでもいい、子どもが困ったときに戻れたり頼れたりする「ハラ」になれる大人がいれば、子どもの非行やイジメの防止や自殺の歯止めになれるのではないかと私は思います。

最後に「幸せの条件」とは

① 自分を好きであること、自己受容。

これができなくなると子どもは荒れます。非行に走るし、親も子育てを放棄したりします。

② 他人を好きであること、他者信頼。

人を好きになることがで友達が作れます。

③ この街（地域・環境）が好きであること、自分が暮らしている街、家、学校が好きである。

もし皆さんがPTA活動で迷われたときは、果たしてこの子は自分のことが好きだろうか？好きじゃ無かったらこの子が自分のことを好きと思える環境をどう作ったらいいか？そうやって子どもたちを愛して行けたらと思います。

子どもは愛されたら必ず笑顔が出ます。私は大きくなった子どもに「愛している」と言います。子どもは「止めてよ」と言いながらも顔がほころんでいます。人は他人に認めてもらうとすごくやる気が出ます。大人の私がそうなんですから未来がいっぱいあって、人生をスタートし始めたばかりの子どもたちは、皆さん大人たちの「認めてくれる」というシャワーを浴びることによってよい子に育つのです。是非子どもたちに「愛のシャワー」を浴びせてあげてください。

分科会発表テーマ

	領 域	発 表 者	テ ー マ
第1分科会	組織・運営	神 戸 市 佐 脇 洋 平	「保護者すべてー父親も母親もーの参画を目指して」
		奈 良 県 緒 川 恵	子どもの安全を守るための PTA 活動
第2分科会	生涯学習	京 都 府 東 直 彦 富岡 淳	親子で共に学び育ち合う PTA 活動
		大 阪 市 谷 口 幸 子 安 藤 愛 弓	「学校と PTA 活動と生涯学習ルーム活動の連携」 ～地域の宝の子どもたちへ。 笑顔広がる「読み聞かせ」～
第3分科会	人権教育	京 都 市 藤 尾 ま さ よ	「日本一の学校にしたいんや！」 ー子どもの心からの叫びに動かされてー
		大 阪 府 坂 田 信 雄	セーフティネットワークシステムにおける人権 ～被害者の人権を如何に守るか～
第4分科会	青 少 年 健全育成	奈 良 県 中 島 千 佳 子 森 岡 咲 子 弓 場 久 美 子	中学校から地域への文化の発信 ～心と心を結ぶ、和太鼓&よさこいソーラン～
		滋 賀 県 平 川 正 子	輝け、玉中！「地域の一員」を自覚して
第5分科会	広報活動	和 歌 山 県 上 野 山 栄 作	楽しさから始まる育友会 ～参加意識を高める広報誌の役割～
		兵 庫 県 三 輪 剛 敏	子どもたちよ地域の中で自己を輝かせ！
第6特別分科会	テーマ：「学校・家庭・地域の連携による子どもの育成」 ～みんなで育てる子どもの未来～ <基調講演> 「子どもを育てるみんなのまなざし」ー教育の連携の基本原理ー 講師 豊田弘司氏 （奈良教育大学教授） <パネルディスカッション> コーディネーター：豊田弘司氏 パネリスト：西川隆彰氏（奈良県教育委員会生涯学習課長） ：水野賢太郎氏（南都銀行人事部係長） ：河合孝信氏（片桐西小学校教諭） ：安田美紗子氏（NPO 法人「都南地区教育振興会」副理事長） ：峯本信子氏（元上之郷小学校PTA会長）		

第 1 分科会 組織・運営

《研究課題》

PTA 活動に目的意識をもって進んで参加し、子どもの健全育成の核となって活動できる組織・運営はどうあればよいかを考える。

発 表 者	兵庫県神戸市立成徳小学校 P T A	会 長	佐 脇 洋 平
	奈良県王寺町立王寺小学校 P T A	会 長	緒 川 恵
司 会 者	神戸市 P T A 協議会	会 長	志 水 のり子
助 言 者	神戸市教育委員会社会教育部生涯学習課	指導主事	大 村 桂治郎
	奈良県教育委員会生涯学習課	主 査	辻 本 雄 一
記 録 者	上牧町立上牧中学校	教 頭	野 村 由紀夫
	王寺町立王寺中学校	教 頭	本 多 敏 人
運営責任者	神戸市 P T A 協議会	副会長	今 田 学 志

第1分科会 組織・運営

「保護者すべて—父親も母親も—の参画を目指して」

発表者 神戸市立成徳小学校 P T A

会 長 佐脇 洋平

P T A会長の仕事を始めて6年目です。各P T Aとも歴史と地域性の元に現在の活動があります。よって本P T Aの活動がどの程度参考になるか不明ですが、お話をさせて戴きます。現在、P T Aの中の「父親会」で男性の力を学校に取り込もうとしています。学校は震災で子どもも保護者も命を亡くするような被害を受けました。一時期児童数が以前の半数に落ち込むようなこともありました。現在はほぼ元の数に戻り940名を数えています。以前は3世代が学校に通っていたような地域性を持っていましたが、復興につれて住民も入れ替わり今は地元の住民と言える人の割合が20%程度になってしまいました。本部役員は11名で、2年で1回転する位の入れ替わりです。現実問題として現役員は旧役員から一本釣りされた人たちです。組織は広報部・福祉厚生部・保体文教部の3部から構成され、その部長は副部長を1年間経験してから勤めてもらっています。各学級には3名の委員がおり、その内70%は立候補で埋まっています。

活動を始めて、「自分も成長する」「学校を知ることができる」「知人が増える」の3点がP T A活動の良い点だと思うようになりました。特に仕事に追われて地域のことをあまり知らない人々にとっては「知人が増える」ことはうれしいことだと思います。

父親会は、以前学校のOBが多かった頃に40名程度で始められました。その後、このままでは仲の良い小グループに分かれてしまうだけだと危惧され、多様な活動を取り入れるようになりました。神戸市には14の父親会がありますが、P T Aの中の組織として活動しているのは本父親会のみです。（京都ではほぼ全部のP T Aに父親会があるように聞いていますが）活動の資金を得るためにP T A組織の一部として活動をおこなっています。現在父親会に参加している家庭数は全体の10%程度です。『我が子以外の子に関心を持っている人の割合はこの程度なのかなあ』と思っています。定例会には30名程度の方が参加し、2次会にも25名程度参加されます。父親たちは仕事以外で、しかも利害関係のないこのような付き合いはあまり持っていません。ですから結構まじめな意見交換などもしながら楽しんで参加しています。

役員決定の時期になると「なぜ学級委員をしなければならないのか？ 何の役に立つのか？ 本部役員はいつまでも大変。」などという意見を聞きましたので「なぜ積極的にP T A活動に参加しないのですか。」というアンケートをとってみました。

その結果、○時間的に長くP T A活動に引っ張られる ○一旦本部を受けるといつまでも続けないといけない ○卒業式で挨拶をしないといけない等の意見がありましたので、学級委員は年に何回出れば良いというように決めました。またP T A活動のPRとして「知らない事を教えてもらって得な気分」とか「子どもの真実を知ることができますよ」という方向でPRに努めています。

さてP T A役員や父親会のOBが、老人福祉・児童館活動などの担い手になっているという例があります。P T A活動が地域の活動の基礎になっているというのもP T A活動の一つの側面です。

子どもの安全を守るためのPTA活動

発表者 奈良県北葛城郡王寺町立王寺小学校PTA

会 長 緒 川 恵

私たち①本部役員は、毎年どうすれば保護者がPTA活動に興味をもって、積極的に参加してもらえるかを考えていきたいと思っています。②王小フェスティバルはたくさんの方々に参加してもらえるように休日参観と一緒にいき、パトロールは協力できる人だけに頼るのではなく「子ども達はみんなですべて守っていく」という目的意識をもってもらうために全員参加型にしました。参加する中で、どの保護者も自分の子どもの通う学校の安全面を心配し、親として何をすべきかを考えたと思います。その親の気持ちを反映させたPTA活動が今回取り上げた校内パトロールだと思います。③校内パトロールを始めて6年、現在に至るまでの試行錯誤の繰り返しの中で、一人ではなかなか行動に移せず、きっかけさえあれば協力できるという保護者がほとんどだと感じました。それで活動を強制的な方法ではありますが全員参加型にしました。結果的にはよかったと思います。

しかし、校内パトロールを実施しているからといって「学校が安全」であるとは限りません。本校の敷地の真ん中を、一般の人達が自由に通行できるという立地条件に関しては賛否両論があります。この自由に通行できる状態は、いつも地域の方々の目が学校に向けられているという意味では犯罪への抑止力につながっているとも考えられるので、決して悪い立地条件ではないかもしれません。

また、登下校時の「安全」を考えるという意味からも、「青色防犯パトカー」をもっと身近に感じて参加してもらえるように、これからも、検討していきたいと思っています。「緑のおじさん」をはじめ、地域の方々の協力のもと、親である私たちができることを考え、今後活動していかなければならないと思っています。そして子ども達が「花いっぱい、やさしさいっぱい、笑顔いっぱい」の合い言葉を大切に、安心して健やかに学べるように、これからも保護者一人ひとりが学校に目を向け、見守っていききたいと思っています。

①役員は1年交替。

②約2年に1回の事業として、本部役員と学級委員が実行委員となり開催。

内容 親子で楽しめる催し マジックショー・落語会・講演会

保護者向け 校服リサイクル販売・バザー・花の苗販売

※本年度は「タイムレター」と題して、子ども達が「未来の自分へ ぼくの私の夢」などの内容で作文を書き、未来の節目まで保護者が預かり子ども達に手渡してもらうという初めての試みを行いました。以上、親子参加型のイベントとしての要素を残しつつ、講演会・鑑賞会などの学習の場を広げていける事業として今後も続けてほしいと思います。

③校内パトロールのきっかけとなったのは大教大付属池田小学校の事件でした。事件直後は本部役員が名札・腕章・防犯ブザーを携帯し、パトロールを実施し、見回り後気づいたこと記録していました。しかし、本部役員だけで継続することが困難になり、運営委員30人に協力してもらいました。その後、全保護者へ協力を依頼することになりました。

質疑応答・研究討議

神戸市 西舞子小学校 P 清水さん

質疑 王寺小 P T A では本部 2 年ですが、1 年にするとかなり仕事を具体化して記録を残さないといけないと思いますが、その辺はいかがでしょう。

応答 佐脇 歴史的に本部役員は 6 年間だったのですが、それが 3 年、2 年と短くなっています。まだ 1 年にはなっていませんので、何とかうまく引継が出来ているようです。私個人は、1 年目で昨年と同様、2 年目で活動の見直しの機運、3 年目でようやく着手できる位だと思います。本部役員 1 年は想定できません。

緒川 私は 1 年目ですが、前年の役員さんに尋ねて何とか進んでいます。ただ、新しいということは、それなりに変化の可能性もあると思います。

質疑 父親会は垂水区にも 3 校あります。本 P T A も可能性を考えたいのですが、立ち上げようとした場合、第 1 ステップはどうすればいいのでしょうか。ちなみに呼びかけは、P T A 会長名だったのでしょうか。それとも外郭団体の代表という形だったのでしょうか。

応答 佐脇 文書上の呼びかけの主は P T A 会長でした。ただ実質的には地域工作ができあがっていて、すでに個人的な呼びかけが先に済んでいましたので、P T A 会長は名前を借りただけです。神戸市内の父親会の情報交換会が来年の 1 月に予定されています。

神戸市 泉台小学校 P 北川さん

質疑 新役員のリストアップの基準は何でしょう。また、くどき文句は何でしょう。

応答 佐脇 旧役員の知り合いをリストアップするというのが実態です。実際はそれ以降、かなりの時間を一緒に活動することになるので、気の合った人というのは、重要な要件だと思います。くどき文句は「お前しかおらん、頼むわ。」という所でしょうか。

緒川 本校 P T A の場合、直接立候補制で、複数の立候補者が出た場合は、話し合いで決めます。もし立候補者が出なかった時は、クラスで 1 名の候補者を選出し、集まった段階で話し合いをして決めます。

神戸市 太山寺中学校 P 瀬尾さん

質疑 王寺小学校 P T A さん、運営委員に地区委員さんがおられますが、どのように選出しておられますか。

応答 緒川 小学生の子どもを持つ保護者の方から、各(登校)部団毎に 1 名選出して戴いています。

奈良 王寺中学校 P 西谷さん

質疑 神戸市の小学校には、父親会があるようですが、中学校ではいかがでしょう。

応答 佐脇 市内で 2 校位だと思います。小学校の O B で立ち上げようとしたのですが、あまり集まりが良くありませんでした。小学校では、子ども相手のスポーツなどの活動が可能ですが、中学校では、子どもが親元から離れていくし、父親の関心も薄くなっているようです。教育に父親の視点があっていいと思います。

神戸市 楠中学校 P 福井さん

質疑 本 P T A には、まだ、「おやじの会」はありませんが、管理職・教員・母親も含めて「おやじと飲もう会」を立ち上げようと思っています。あまり意気込み過ぎてもいけないと思いますが、注意点はありますか。また、王寺小学校 P T A では、学校内の安全パトロールで、P T A 会員が実際に危険な場面に出くわした時、どう対応するように指導されているのでしょうか。

応答 緒川 実際に、そういうことはありませんでしたが、3～5 人で組を作り巡視しています。もし不審者がいたら防犯ブザーを使用し、1 人が職員へ知らせることにしています。

神戸市 烏帽子中学校 P 越智さん

意見 父親会を3回行いました。成徳小のOBが中心ですが、メンバーは固定化して苦勞しています。
「対、親」でなく「対、教師」でもなく「一緒に」の姿勢で運営しようとしています。今まではフリートークの形でしたが、次回からは何かテーマを決めて活動してみたいです。

滋賀県 旭森小学校 P 岡崎さん

質疑 3年目の会長です。今、子ども・地域・教師へ、しわ寄せが来ています。私たちにできる事は、何でしょう。PTAには、何が必要なのでしょう。どのように周囲を巻き込んでいくといいのでしょうか。

応答 会場より 教師は家庭訪問をしています。会長が地域を廻ってみるのは、いかがでしょう。PTA活動には、仕事の都合などで出てこれない方が70～80%ではないでしょうか。大変ですが、お休みの日に足を運んでみられたらいかがでしょう。色々な要望が掴めると思います。

奈良 生駒小学校 P 林さん

意見 14年前、生駒幼稚園で父親の会を立ち上げました。お母さんもおられるので、レスキュー隊と名付けました。なかなか1、2年では順調にいかないと思います。コツコツやるしかないでしょう。活動が楽しければ、人集めに苦勞はしないように思います。今、PTA本部は男13名、女13名で、5年先まで会長候補が決まっています。(会場より驚きの声)人と人のつながりが大切だと思います。

指 導 助 言

助言者 大村さん

会場からもお話がありましたが、人と人の繋がりや、きっちりとした付き合いが出来て、子どもを中心に据えていれば、PTA役員の選出も次々と私が・・・と言うのが理想ですね。

「おやじの会」という名前はどうかかな、と思いますが、父親に対して「学校のことを知っていますか」という質問に対して、余り分かっていない自分に気付いて、学校探検が始まるということもあるようです。飲み会でスタートすると、後がどうかかなあ、とやや心配です。

PTA活動の活性化という点では、一人一役を時間や活動内容で、もっと細分化するのも一つの方法でしょう。朝、昼、夜と時間帯を分けて、「出来るときに出来ることを」という方法です。

PTA活動は、学校支援という立場に加え、保護者自身の自分育て(自ら学ぶ)という意味でも大切です。親にとって、自分の成長という視点も重要です。

地域のお年寄りが、安全対策に協力して戴いている中で「肝心の保護者自身がお年寄りにお礼を言わないのはどうなっているのか。」というクレームに対して、あるPTA会長は、地域の活動を一旦ストップしてもらい、保護者の意識を確認しながら活動を再編成されました。一つの決断だと思います。

助言者 辻本さん

両校PTAとも「子どもは、まず家庭で育てる」「少ない人数からでも」という姿勢が立派だと思います。私自身、オーストラリアに行った時に、子どもが親に感謝する日に遭遇しました。平日にも関わらず、男性の数が多く「なぜですか。」という質問をしましたが、質問自体が理解されず「当然でしょう。」という態度でした。自然に男女共同で子育てが行われている、と感じました。家庭では、子ども達の生活のリズムをきちんとしていくことが大事だ、という考えです。日本でもようやく「早寝、早起き、朝ご飯」という声が聞こえて来ました。家庭教育への復帰が、やっと始まった感じです。

父親の会ですが、ある中学校では、クラス対抗の親子綱引きを企画されました。父親の参加が少ないクラスは不利になるので、子どもが「お父さん、学校に来てよ。」と言ったという事です。こういう事もあり得るのか、と思いました。簡単な行事に参加することで、自分もPTAの一員なんだ、と自覚することが大事です。王寺小学校の発表にありました、見回りノートの存在は大きいと思います。PTA活動のなかで気付いたことを書き残しておいて、後に繋げていくことは、とても大切なことです。

地道な活動を辛抱強くコツコツと積み上げていくこと、地域と強く結びついていくことが、子ども達を育てていくことだと考えます。



《研究課題》

子どもたちが、大きな夢をもち、ともに生き、ともに学び・育つことを支援のできる、力量を持った保護者になるための PTA 活動はどうあればよいかを考える。

発 表 者	京都府京丹後市立間人中学校 P T A	会 長	東 直 彦
	大阪府大阪市立安立小学校 P T A	書 記	谷 口 幸 子
司 会 者	京都府 P T A 協議会	会 長	竹 田 隆 司
助 言 者	京都府教育庁指導部社会教育課	教育主事	中 村 忠 孝
	近畿ブロック協議会	顧 問	叶 貞 二
記 録 者	組合立式下中学校	教 頭	早 川 佳 仁
	三宅町立三宅小学校	教 頭	田 畑 榮 一
運営責任者	大阪市 P T A 協議会	会 長	西 岡 義 治
	大阪市 P T A 協議会	副会長	坂 根 裕 子

第2分科会 生涯学習

親子で共に学び育ち合うPTA活動

京都府京丹後市PTA協議会丹後ブロック

(京丹後市立間人中学校PTA会長) 会 長 東 直 彦

(京丹後市立宇川小学校PTA会長) 副会長 富 岡 淳

1、はじめに

- ・京丹後市丹後町は、京都府の北部、丹後半島に位置し若狭湾国定公園に指定される。
- ・平成16年4月、峰山・大宮・網野・丹後・弥栄・久美浜の6町が合併する。
- ・宇川小学校、間人小学校、豊栄小学校、竹野小学校の4つの小学校と宇川中学校、間人中学校があり、6つの京丹後市協議会丹後ブロックとして活動している。

2、丹後ブロック内PTAの取り組み

(1) 豊栄小学校PTAのスキー教室指導補助の取り組み

- ・5、6年を対象に毎年実施している。「アルミ缶回収」を行い、その収益をスキー教室指導補助費にあてている。今では、「アルミ缶回収」が地域住民にも浸透している。

(2) 竹野小学校PTAの「親子餅つき大会」の取り組み

- ・杵と臼を使って、親子で餅つきを行い、楽しい親子のふれあいの機会を設けている。

(3) 間人小学校PTAの「親子球技会」の取り組み

- ・親子でドッチボール大会を開催し、ふれあう機会を設けている。

(4) 宇川中学校PTAの有志による「宇中おやじの会」の取り組み

- ・立て看板の作成や「おやじと子どものふるさと討論会」として、宇川地区の活性化について話し合う。

(5) 間人中学校の「親子球技大会」「母親委員会の服装リサイクル」の取り組み

- ・「子どもチーム」対「親チーム」の対抗戦による親子ふれあい活動。
- ・PTAの行事ごとに、小さくて着られなくなった学生服等を展示し、会員相互のリサイクル活動を推進する。

3、特色ある宇川小学校のPTAの取り組み

(1) 取り組みの様子

- ・宇川小学校は昭和50年4月、下宇川小学校、上宇川小学校、下宇川小学校袖志分校、竹野小学校此代分校が統合して丹後町立宇川小学校として開校し、平成3年に虎杖小学校が統合となる。平成16年、京丹後市の誕生により、京丹後市立宇川小学校となる。
- ・活動方針は「地域・家庭・学校及び会員相互の連携を強め、心身共に健康な子どもの成長を願って手をつなごう」
- ・重点目標は「家庭の役割を自覚し、子どもの生活リズムを確立し、定着させる取り組みを進めよう」、「親と子の心のふれあいを大切にする」とともに、親同士の繋がりを更に深めよう」

(2) 親子ふれあい授業

- ・平成14年度より社会人講師として、父母が授業に参加し、いつもと違った雰囲気と内容で親子のふれあいを持つ活動をしている。

(3) 取り組みのまとめ

- ・子どもたちは、父母から知恵・知識・技能を学ぶ貴重な体験となり、親子がふれあう有意義な機会となっている。

4、まとめ

- ・丹後ブロックでは、児童・生徒の減少が目立つ中、親子がふれあう機会を持ち、地域に夢と誇りの持てるPTA活動を大切にしてきた。
- ・「家庭はすべての教育の原点」であることを認識し、PTAが「学校・地域社会の連携の要」であることを自覚するとともに、ブロック内PTAが連携し、一層、充実したPTA活動を推進していきたい。

「学校とPTA活動と生涯学習ルーム活動の連携」

～地域の宝の子どもたちへ。笑顔広がる「読み聞かせ」～

大阪市立安立小学校 P T A 書 記

谷口 幸子

生涯学習運営委員会

安藤 愛弓

1、はじめに

- ・大阪市立安立小学校は 97 年の歴史があり、校区は、北は細井川から南は大和川までの広範囲にわたっている。
- ・平成 17 年 9 月に「はぐくみネット」を立ち上げ、学校・PTA・地域が一体となり「地域の子どもたちはみんなで育てる」という気風が年々高まっている。

2、PTA活動全般について

(1) 保護者、地域のつながりを重視した活動を紹介。

- ・バザー：学級委員会が主催。その収益を児童のための教育条件の充実に使用。
- ・献血：保健給食委員会が主催。地域のライオンズクラブも協力して開催。
- ・親子清掃：夏休み後半に児童、保護者、教師がグランドの環境整備。
- ・秋季レクリエーション：PTA実行委員会が主催。全PTA事業として毎年 10 月に開催し、その収益は施設充実に還元。
- ・安立少年クラブ：PTA会長が代表者。3つのクラブがあり、指導者は、教師、地域のボランティアが行っている。

3、安立生涯学習ルーム

- ・PTAで活動してきたOBで構成され、16講座を開講し、学ぶ喜びの場として生涯学習講座を開いている。
- ・昨年より「絵本の読み聞かせ講座」を開設し、13人のメンバーで月2回の講座を開いている。

4、学校での読み聞かせ会の現状

- ・校区内に図書館がないため、平成8年にPTAによる図書委員会が発足した。
- ・平成10年、図書委員会と成人教育委員会が合併する。
- ・学校長より、読み聞かせの要望があり安立ホールで「絵本の読み聞かせ会」がスタートする。
- ・現在、月2回の活動を行っており、寄贈品も含め、3万冊の蔵書がある。

5、活動を振り返って

- ・保護者のPTA活動への参加の減少がある。
- ・PTA活動が過小評価されている。
- ・安立生涯学習ルームの講座のメンバー、PTA会員、地域の小・中・高校と意見交換と連携を深めていく必要がある。

質疑応答・研究討議

三宅町立三宅小学校P 若林さん

質疑 P T A活動に参加するのは、保護者の一部であるが、どのように、クリアーしているのか。

応答 富岡淳さん

・地域性もあり、親同士がよく知った間柄なので参加率が良い。

応答 安藤さん

・ふれあいホームを手伝う内に、来年も一緒に活動したいという気持ちになる。そんなところから広がっていくのではないかな。

奈良県 吉野郡 吉野北小学校 辻内さん

質疑 児童数、P T A会員数とも減少しており、かなり小規模な学校なので、P T Aのメンバーが他学年にまたがったりして、どの学年でも同じメンバーが揃うことになる。講師をどのように決めているのか。

応答 富岡淳さん

・毎年、年度初めの授業参観の後に保護者が集まり、交流する中で、学校の現状、家庭状況等について話し合い、本年度の親子授業をどのようにするのかを相談する。
・話がまとまらないときは、各学年、2名の学級委員が中心となりテーマに基づいて講師を依頼する。
・講師がいなければ先生と相談しながら進めている。
・親子ふれあい授業は、子どもだけが聞くのではなく、多数の保護者も参加して協力的である。

京都府 武田隆司さん

質疑 いつ実施しているのか。

応答 富岡淳さん

・日曜日に実施している。その日は通常授業で、午後1時から2時まで保護者に授業参観をしている。
・位置づけとしては、学校の授業の中で行っている。

三宅町立三宅小学校P 原さん

質疑 P T Aと、どのように連携をとっているのか。

応答 安藤さん

・P T Aの役員経験者が生涯学習講座へ参加しており、それぞれの得意な事を発表している。
・P T Aと生涯学習がバラバラではなく、連携ができる状態で進めているので、若いお母さんが参加できるのではないかなと思う。

質疑 生涯学習ルームの運営は、どのようにしているのか。

応答 秋本さん

・費用は、教育委員会より、年間費用として数十万を補助してもらっている。後は、それぞれの講座で、受講生が受講費を支払っている。その中から、講師謝金や運営費を支出している。
・予算が少ないから講座ができないというのではなく、続けたい人がある限り講座を続けたい。
・P T Aの中から、運営委員を出しているの、学校の施設を借りるのに便利である。このような方がいるので、学校との連携がうまくいっている

京都府 青葉中学校 三島さん

感想 生涯学習の読み聞かせや、ネットワークが、うまく活用されていることに感心した。

指 導 助 言

助言者 中村 忠孝さん

- ・すばらしい発表でした。小学校で、このような取り組みができていることは刺激的でした。また、中学校は、子どもが難しい年齢なので、PTAと中学生と一緒に活動することは難しいことである。
- ・2校の発表を聞いて共通していることは、子どもたちを真ん中においていて、その子どもたちの健全な育成を目指して、どんなふうに立派に育てていこうか、という部分がある。その熱い思いは、子どもたちに通じ、大人を動かすことができると思う。

親子で共に学びあうPTA活動について

- ・ブロックの発表と宇川小学校PTAの共通点は、親の活動が取り入れられていることである。
- ・親の活動は、保護者同士の連携、保護者と教師の連携が結びつきを深めている。
- ・親が子どもたちとふれあうことによって、子どもの成長にもふれることができ、親子のふれあい活動が取り入れられている理由ではないかと思う。
- ・宇川小学校のふれあい授業は、なかなかいいと思う。
- ・今後、子どもたちの希望を聞き、その中から、どんなものを取り入れていくのが、これから先に広がりのある活動ではないかと思う。
- ・教師が、毎日教えているのではなく自分たちの一番身近にいるお父さん、お母さんが教壇に立つことによって、地域の子どもたちが育てられるし、新たな一面が発見されるのではないか。
- ・大人が、自分の得意なことを教えようとするなら、もう一度勉強し直すことになり、それが、生涯学習につながっていくのではないか。
- ・今、子どもが大人になったとき、それをどのように、継承し発展していくか楽しみである。
- ・子どもの居場所づくりはいろんなところでされているが、京丹後市の子ども居場所づくりを聞かせてもらい、大人の思いが子どもに繋がっていると感じた。

大阪市安立小学校の発表について

- ・絵本の読み聞かせは、学校教育でも、社会教育でも非常に重用されている。それは国語力が高まるからだ。一般に国語力を高めるためには、読書力が必要である。社会教育と学校教育が一体となって進めている。
- ・PTAの中でボランティアとして活動することは、学校も歓迎していることだと思う。
- ・PTAが地域に呼びかけていくことを、今後も、大事にして欲しい。
- ・楽しいことをしなければ人が集まらないのではないかという意見がありましたが、その通りで、大人も子どもも楽しめるイベントがあることが大事である。
- ・広報については、いろいろなところから、電話やFAXを流すなど、多様な手段を使って広報することが重要である。

助言者 叶 貞二さん

- ・宇川小学校は非常に活発に活動されている。規模が小さいからできるのではないか。
- ・6校の中で、親子対抗戦を持つことができれば、楽しいのではないか。
- ・安立小学校の活動は、PTAと学校とがジョイントした形である。それが子どもたちの人間形成に役立っている。
- ・今、日本語があやしくなっている。若者の使う日本語に対して歯がゆく思っている。学校の教師にもそのような指摘がある。
- ・子どもへの読み聞かせは、国語力を高めるような形で行われているのではないか。
- ・2つの発表に共通することは、子どもたちにふるさと意識を持たせようとするものである。そして、力量を持った親をつくること。つまり、生涯学習活動を通じて、人間として、親も子も共に成長しようとしていると感じた。
- ・こういう発表の場に、先生が参加してくれたら、保護者もやって良かったと思うので、もっと参加して欲しい。
- ・学校だけではなく、地域と共に、子どもを育もうという取り組みだと思います。



第3分科会 人権教育



《研究課題》

会員自らの人権感覚を磨くとともに、子どもたちの豊かな感性を育み、自他敬愛に基づく人間関係を築き、たくましく生きる、人権と共生の世紀にふさわしい PTA 活動はどうあればよいかを考える。

発 表 者

京都府京都市立皆山中学校 P T A

門真市 P T A 協議会

会 長 藤 尾 まさよ

会 長 坂 田 信 雄

司 会 者

大阪府 P T A 協議会

副会長 松 田 頼 告

助 言 者

京都市教育委員会

門真市教育委員会社会教育部教育課

首席社会
教育主事

古 田 義 久

課 長 柏 木 康 夫

記 録 者

大和高田市立高田西中学校

大和高田市立高田中学校

教 頭 森 正 男

教 頭 玉 井 章 進

運営責任者

京都市 P T A 連絡協議会

京都市 P T A 連絡協議会

会 長 山 名 裕

副会長 四 方 有 紀

第3分科会 人権教育

「日本一の学校にしたいんや！」

— 子どもの心からの叫びに動かされて —

京都市立皆山中学校 P T A

会 長 藤 尾 まさよ

1、はじめに

- ・全国でも有数の同和地区を含む本校は生徒数の減少に伴い、平成 19 年に近隣 5 校が統合する下京中学校に移行する。7 年前、生徒の`荒れ`をきっかけに抜本的な学校改革が始まった。この改革以降、学校は地域との繋がりを持ち始め、P T A も活動再開の芽をふき始めた。
- ・平成 15 年、皆山中学校の生徒の意識改革が、1 つのアピール文として形になり、学校がよりよい方向に動きだした時に、ある差別事象に直面した。わが校の生徒達の心からの叫び「日本一の学校にしたいんや」の言葉が、その後の保護者、地域、教職員の活動に大きな影響を与えることになる。私たちの P T A 活動もこの言葉より始まった。

2、皆山中学校 P T A 活動の取り組み

① P T A 同和問題学習会

同和問題に対する私たちのあいまいな知識が、親から受け継がれていることに気づき、間違った考えを子どもに受け継がせることのないように「まず、私たち親が勉強しなければいけない。」という保護者の声から出発し、生徒と同じカリキュラムを学んでいる。明るく、楽しい、意見の出し易い工夫もされ、3 回の座談会は堅苦しくなく、一人ひとりの考えを尊重することで、意見を出し易い会になっている。

② 竹田さんの手話講座

P T A 会員で、ご夫婦とも聴覚障害者の竹田さんご夫婦に、2 回にわたり講義を受け「障害がある、無いに関わらず共に生きるには、お互いが相手のことを正しく理解しようと、歩み寄ることが大事」ということを学んだ心に響く講座であった。

③ 地域のお祭りへの「参加」から「参画」へ

崇仁地域（同和地区含む）では、「まちづくりは人づくり」の合い言葉のもと、地域が中心となり保育園・小学校の P T A も参画して、春祭り・秋祭りが活発に行われていた。しかし、今まで参加していなかった皆山中 P T A が参加するようになって、同和地区の委員との距離も縮まり、地区の人への理解が進んだ。参画には皆山スクールパートナーの支援が大きな力となった。

④ 皆山中 P T S A 活動

この活動は、京都府内で初めて立ち上げられた、大人と子どもがしっかり向き合い、話をしながら一つの目標を目指して共に手を繋ぐというものです。文化祭で生徒、教職員、保護者、地域の人みんなで作った「万華鏡作り」や、大人と子どもが向かい合い、伝え合うことを工夫してコミュニケーションを図る「しゃべり場」また、2 万人以上の参加者がある京都市 P T A フェスティバルでの中学生ボランティアの参加、そして、素手と雑巾でトイレ掃除をする「便きょう会」などの活動を通して、真の皆山中学校とその生徒たちの姿を外部に発信してきた。

3、おわりに

「皆山中学校を日本一の学校にしたいんや」私たちは生徒の心からの叫びに、背中を押されるようにして P T A 活動をしてきました。私たちが子どもに、「人を人として大切にする、豊かな心を持った人間に成長してほしい」と願うのならば、まず、私たち大人が人を尊重し、相手のことを正しく理解しようと歩み寄ることです。子どもたちが変わろうと行動を起こしたように、まず、大人が自ら正しく学び、正しい行動を起こさなければなりません。イジメの無い私たちの皆山中学校は統合される最後の日まで、我が校の真の学校や生徒の姿を発信し、偏見を払拭していきます。そして、新たな下京中学校へ繋げていけるように活動していきます。

セーフティーネットワークシステムにおける人権 ～被害者の人権を如何に守るか～

門真市 P T A 協議会

会 長 坂田信雄

1、はじめに

・門真市 P T A 協議会（16 の小学校、7 つの中学校）の事業の一つが携帯電話を利用した緊急配信システム（セーフティーネットワークシステム）である。

2、セーフティーネットワークシステムについて

・平成 13 年に、ある小学校区の「痴漢対策連絡会」をきっかけに、翌年、パソコンを利用した電子メールでのプロジェクトを開始したが、費用・設備面で暗礁に乗り上げる。平成 15 年には、当時の会長が携帯電話を利用した独自のソフトウェアを開発した。同時に市教委、校長会、市 P の三者で「危機管理における連絡体制網研究会」を立ち上げ、運用や実施要綱を策定し、翌年「I T 推進委員会」を発足させた。

このシステムは、情報配信だけではなく、登録会員からも情報を投稿できるものの、内容についての精査（学校・警察への確認）や被害者の人権を考慮して内容の変更後、配信するという作業が必要である。（一方では詳細な情報を求める声もある中で）

まとめ

・被害者の人権等の配慮に限界を感じていたとき、本年 1 月から詳細な情報が載る「安まちメール」配信（大阪府警から）が始まった。すると一般登録者からの投稿が激減した。このため市 P では協議をして、「安まちメール」でも十分対応できるという結論に達した。これにより、セーフティーネットワークシステムの役目は終わったと判断して 10 月 31 日をもってシステムの運用を中止した。

・当初は、どこにもない配信システムで、新聞、テレビに取り上げられ、その他の地域でも緊急配信システムが行われるようになった。

質疑応答・研究討議

質疑1 兵庫県尼崎市立大潮中学校 松菱さん

尼崎市は、7つの隣保館に人権推進委員会があるが、皆山中にもあるのか。学校やPTAとの関係はどうなっているのか。また、皆山中学校の同和教育や門真市P人権啓発委員会の活動について知りたい。

応答 京都市立皆山中学校PTA会長 藤尾まさよさん

7年前、同和地区と学校が本当に結びついた。今では、教育連絡会があり、小学校、中学校や地域、PTA等が情報を共有している。「PTASA」は、保護者に学校へ足を運んでもらうことだった。

学校の方からも地域と手を結びたいと思い、地域の方もそれを助けたいということで、お互いに手を繋ぐことになった。

皆山中学校は今まで、一度も地区に足を踏み入れたことがなかった。それを、前PTA会長の「するぞ」のひと言で実現した。同和教育は、同和主任が授業をしており、授業の中に人権、人を大切にした授業をしてもらっているのので、授業の中で自然に人権意識を養うことができる。

皆山中の生徒は、休憩時間に職員室の前の廊下でたむろをする。先生の見える所で遊び、先生の存在を身近に感じながら、いつもそこにいる。私たちPTAの活動は、先生方に100%の力を子どもたちに注いでもらうための活動である。人権を教える同和主任のような先生がいるので、学校には「いじめ」はない。

応答 門真市PTA協議会会長 坂田信雄さん

門真市PTA協議会の人権啓発委員会に関する質問ですが、独自の事業は行っていない。門真市が主催する人権講座、「ともに生きる」の参加要請に応じている。

質疑 京都府相楽郡 木津第2中学校 女性

日本の国歌と国旗があったが、自分が日本人でないタイ人は自らのアイデンティティを持ちながら、どのように学校と接すればよいのか。国家や国旗はシンボルとして私には、大きなものである。人権の問題として意見を聞きたい。

助言者 京都市教育委員会 主席社会教育主事 古田義久さん

今、京都市の小・中学校には、28ヶ国の児童・生徒が在籍している。差別とは、自分たちとは異なる者を単純に排除し、自分たちと一緒にいることを求める同化の強要だと思う。しかし、人間として、お互いを大切にするという視点で知り合い、分かり合い、認め合うと言ったことが大事なことでないかと思う。

質疑 京都府宇治市西宇治中学校 山田さん

学校のために、子どもたちのためにPTAとして何かをしたいが、一歩を踏み出すためのアプローチがわからない。アプローチの仕方をご教授いただきたい。

応答 京都市立皆山中学校PTA会長 藤尾まさよさん

我が校のやり方は思いつきで、思いついた時に活動することが一番大事なことだと思う。「思いつき」は、言葉のとおり、思いが付いて自分の心の中に熱いものがあるということである。自分の「思いつき」に正直に動くことが、一番大事なことだと思います。誰かが思いついて、誰がそれを取り上げる。それがアプローチの仕方ではないだろうか。

トイレ掃除は素手でやる。便器にそれぞれの名前を付けて磨き上げると、自分までがうれしくなる。目の前にあることを一所懸命にすると、自分の中で何かが起こってくる。それが「勉強会」という会になった。会のメンバーで宇治市にトイレ掃除に押しかけたい。

「PTASA」発足会議の時、生徒会長に、「夢」は自分で作っていくものだから、一緒に作っていかうと呼びかけた。代償は求めず、活動の場を求めている。

学校に対しては子どものためにやっている、はっきりと言ってほしい。

質疑 京都市PTA連絡協議会京都私立学 小学校PTA会長 日下部さん
門真市の「児童憲章」の精神に即してとあるが、内容について教えてほしい。
応答 門真市PTA協議会会長 坂田信雄さん
数年前に出来たが、私自身は分からない。

指 導 助 言

助言者 古田義久さん

先生方が子ども達に100%の力を注いでいただくために活動しているんだと、PTAサイドが考えている理想の姿である。学校は、子ども達の「学び」「進路保障」「自立」に責任を持ち、家庭における子どもの「育ち」を支援している。親はPTAを通して自分の子どもの家庭での「育ち」、地域での「育み」に責任を持ち、学校での「学び」を支援する。この双方向的な、子どもの「育ち」と「学び」に寄り添うPとTの関係が、うまくかみ合った時に、非常に大きな力が生まれる。

学校は、自分達のことは、学校内で全てをやりたい、完結したいと考えている。これが教師の「思い」である。学校はいろんな情報を、出し切れないでいる所がある。一方、親側の問題もある。一般の保護者が、「〇〇先生、ちゃんと授業をさせてくれ」と言ったりして、学校と対峙するようなPTAはだめだ。親も学校の先生も同じである。お互い補い合い、助け合い、学びあい、高め合う中で、学校とPTAの関係を据え直す必要がある。

「日本一の学校にしたいんや！」という、子どもの切なる叫びが、差別から解消されたい、差別と戦うぞ、という、まさに宣言であり、同時に親の思いでもあり、地域の住民の思いでもある。取り組みを通して苦労を共にし、痛みを分かち合いながら障害を乗り越えたとき、人間関係が生まれるのである。

最後に、ある中学校の女子生徒が自殺するときに、冒頭に「この手紙が読まれる頃、私はもう、この世にいません・・・・・・」と書かれた遺書を残した。この遺書がクラスで公開された。そんな遺書を子どもに書かせてはだめだ。今、大人は本当に自分たちの生き様、行動規範を見つめ直すときではないか。一昨年、連続4回の勉強会をもった。「虐待の問題」、「エイズの問題」、「インターネット・携帯電話の弊害の問題」、「薬物の問題」である。その声を提言にまとめて、この6月に京都市長に提出した。第2の市民憲章を、子どものための市民憲章のその素案が、昨日(11月7日)でき、新聞に発表された。

助言者 柏木廉夫さん

この門真市で、一人のPTAの会長さんがPTA協議会全体を動かし、学校現場、校長会・教育委員会の強い抵抗の中でセーフティシステムを立ち上げた。最終的には、3,048名もの方が(全児童の30パーセント弱)登録した。小学校、中学校のPTA会長さんが府警や近畿を動かし、全国を動かした。

このセキュリティ問題には行政側に分かりにくい面もあったが、それでも行政を巻き込んだ意義は大きい。新しい提案があっても、行政・学校現場というものは、なかなか「うん」と言いにくい人間集団の集まりである。一人の単位PTA会長の動きが全国を動かしたことは、教育委員会の人間としても大変うれしいことである。教育委員会の人間として、このようなところで報告できることに誇りにも思っている。皆さんの新しい取り組みを、議論しながら展開し、教育委員会、学校現場を動かして、素晴らしい活動をされることを期待している。



第4分科会 青少年健全育成



《研究課題》

家庭・学校・地域の連携のもと、子どもたちが国際人としてでっかい夢をもち、主体的な活動や自己実現に向けて自らの生き方を探求できる環境づくりや人間づくりをするためのPTA活動はどうあればよいかを考える。

発 表 者	奈良県葛城市立白鳳中学校PTA	副会長	中 島 千佳代
	滋賀県草津市立玉川中学校PTA	会 長	平 川 正 子
司 会 者	滋賀県PTA協議会	副会長	小 巻 おさみ
助 言 者	福祉部子ども家庭局青少年課	係 長	島 田 裕 司
	滋賀県教育委員会生涯学習課	主 査	北 島 泰 雄
記 録 者	葛城市立忍海小学校	教 頭	坪 内 正 之
	御所市立大正中学校	教 頭	上 田 喜 彦
運営責任者	京都府PTA協議会	副会長	松 村 恵 子

第4分科会 青少年健全育成

中学校から地域への文化の発信！！

～ 心と心を結ぶ、和太鼓 & よさこいソーラン ～

奈良県葛城市立白鳳中学校

副会長 中島千佳子

〃 森岡 咲子

〃 弓場久美子

1 はじめに

葛城市は、平成 16 年 10 月に誕生した新しい市で、奈良県の北西部に位置し、田園地帯が展開する人口約 3 万 5 千人の閑静な市である。大阪府に隣接していて、都市近郊型の、野菜や花木栽培とともに、葛城山麓の地形を利用した酪農も盛んに行われている。近年では、大阪のベッドタウンとしての都市化が進む中で、青少年の健全育成を阻害し安全を脅かす状況が増加傾向にある。

2 組織

白鳳中学校の P T A 事業部は、平成 17 年 4 月の総会で組織を改革し、6 つの事業部に集約され、その 1 つとして青少年健全育成部の活動が始まった。本 P T A は、葛城市が誕生した後、平成 17 年 5 月に市 P T A 協議会が設立され、その一員として新しい活動が開始された。

3 活動内容

(1) 青少年健全育成部の活動

青少年健全育成部では、事件が起こってから行動しては遅いという考えで、問題が発生する前に何とか防ぐようにしようと以前から校区内の巡視を行い、特に、夜間の巡視や校区外の「たまり場」になりそうなところにまで範囲を広げた。さらに、平成 13 年度からは P T A 地域委員の協力を得て、登下校時の巡視を続けている。ただ、中学生は部活動をしていることが多く、部の終了時間の違いで巡視時間をいくつか区切って実施しなければならなかった。そのため、当番として巡視するのが大変であったが、無理のないように調整して、長く続けていくことを特に重視した。

(2) 地域や行政との連携

校区の小学校と連携して危険箇所を徹底的に調査し、改善しなければならない箇所については、行政に要望書を提出し改善してもらったり、地域の方々には防犯の腕章を配布して、散歩、ウォーキング、買い物などのときに腕に付けていただき、防犯意識を高めてきた。また、教育委員会に足を運んで現状を報告し、協力の依頼をしてきた。その結果、行政は巡回を実施し、「子ども守り隊」というプレートを作って P T A や地域に配布してくれた。

さらに、市は P T A の要望を受けて、平成 17 年 4 月から下校時の安全を守るため、子どもたちに付き添う「児童安全パトロール」を配置し、今年 4 月からは「青色パトロール」による見守り活動も開始された。このようにして、葛城市では学校・地域・行政が一体となって子どもたちの安全を見守る協力体制が整えられた。

(3) 居場所をつくれない子どもたち

白鳳中学校では、平成 10 年頃から生徒が次第に「荒れ」や「揺れ」を見せ始め、様々な問題行動を起こすようになった。このような状況が現れ始めた当初、学校では生徒指導の先生方が、生徒の問題行動を力によって指導しようとしたが、問題行動の根本的な解決にはならなかった。

そこで、P T A と学校が相談をして「フリー 参観」を実施し、保護者が自由に来校して参観できるようにしたが、気にかかることを注意しても生徒が全く言うことを聞かない状況で、先生方も保護者もどのような取組ができるかを つくづく悩んだ時期が続いた。

(4) 地域の人々と當麻太鼓“白鳳座”&“よさこいソーラン”

生徒の「荒れ」や「揺れ」が続く中、不登校生徒の問題にも直面したが、当時の町当局は全国に先駆けて「教育相談室」や「適応指導教室（ふたかみ学級）」を設置し、スクールカウンセラーや指導員を派遣してくれた。そのカウンセラーの先生は、難しい問題に熱心に取り組み、学校の先生方、生徒、保護者にその都度、適切な助言をした結果、大人（教師）に心を開かなかった生徒の一人が徐々に心を開くようになった。その生徒を通して先生方も、問題を起こしている生徒たちが、本当は何かに打ち込みたいのに、何をしたいかわからなくて、力を持て余しているということに気づき始めた。生徒のみなぎるパワーを何に向けさせればいいのかを悩んだ末、やがて和太鼓に出会ったのである。

生徒は、地域の青少年指導員の熱心な指導によって、和太鼓に情熱と力を注ぐようになり、少しずつ学校の先生方の指導に耳を傾けるようになった。問題行動も減少し、先生や生徒、保護者はもちろんのこと、地域の人々からもこの取り組みが認められるようになった。平成 12 年には、和太鼓のほかに、当時、交流していた北海道当麻町で盛んだった“よさこいソーラン”を取り入れ、交流会や体育祭さらに地域の催しにも参加して、積極的に披露するように努めた。このようにして、生徒たちの「やればできる」という自信と「心の居場所」がどんどん増えた。そして、次第に地域にもその輪が広がり平成 13 年には、地域住民が参加できる和太鼓サークルの當麻太鼓“白鳳座”ができ、続いて平成 15 年には、子ども太鼓“白鳳座”も発足し、子どもたちが活躍できる場ができた。このように、和太鼓&よさこいソーランが学校と地域の結びつきを強くし、地域に向かってどんどん大きな輪となり広がった。

4 おわりに

青少年健全育成の活動は、決められた活動をするだけではなく、大人一人ひとりが危機感を持って生活していくことが第一歩であり、荒れたときの経験から、生徒に色々な活動や体験の場を与え、生徒が主体的に活動し、その成果が十分に評価され、達成感を得られることによって地域社会の一員としての自覚を高めることができることを再認識した。健全育成は地域社会全体で行ってこそ、初めて成果があがるものであることを見事に実証したと思う。これからも、生徒の健全育成に努めるため、「南中ソーラン」の快い汗を流していきたい。

輝け、玉中！

「地域の一員」を自覚して

草津市立玉川中学校 P T A

会 長 平川 正子

1. はじめに

玉川中学校は、草津市の南部丘陵に位置し、創立 15 年の学校である。校区内を縦横無尽に鉄道や主要幹線が通っていて、高校や大学のキャンパスがあり、近くには遺跡もある。「玉川」の名前は、校区内にある日本六玉川のひとつ「萩の玉川」が、街道に面して流れていたことに由来している。『あすもこむ 野路の玉川 萩こえて 色なる浪に 月やどりけり』(源俊賴)

去年度より玉川中学校は「理数大好きモデル地域事業」、「中学生チャレンジウィーク」、「中学生へジャンプ交流体験事業研究推進校」を受けている。

もともと地域の諸活動が盛んで、市で取り組んでいる「地域協働合校」に最初から参加し、地域の子どもと大人が、かかわり合い、お互いに学び合うことが様々な場面で意識され、少しずつ定着している。

2. 組織

P T A総会は、毎年5月に実施している。常任理事会も毎月開催している。同和教育推進協議会に属し、毎年、研修事業を行っている。本年度は、子どもと同じテーマで人権学習に取り組み、「親子で学ぶ人権教育講演会」を実施している。

また、各委員会活動も盛んである。地域部は、自治会関係者や民生児童委員の方も参加して、7会場で地域別懇談会と地域別会議を実施している。体育部は、美化活動と体育祭のP T A参加プログラムを企画運営し、学校保健委員会を実施している。広報部は、広報誌「あしおと」を発刊、独自のアンケートによる「P T Aだより」の発信やホームページの更新をおこなっている。学年部は、懇談会を運営し各学年の課題に対応し、教育講演会を企画している。家庭教育学級は、研修事業を企画し、後援会は、子どもたちの部活動を支援している。P T Aのスローガンは、歴代「ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために」を継承しているが、会員同士が「陰口や噂話を言わない」ということをモットーにして活動している。

3. 活動内容の紹介

(1) 玉川中学校「合唱コンクール」への参加

毎年秋の文化祭に、P T A（保護者・教員）の有志とO Bで合唱隊をつくり参加している。練習は、真剣な中にも和やかで楽しい時間である。歌だけでなく、衣装や身振り、小道具などにも演出を効かせるので、聴いている子どもたちにも大人気で拍手もおこる。

(2) 「玉川萩まつり」での模擬店

萩まつりには、P T Aと生徒会の有志が模擬店を出し、フランクフルトの販売をしている。小学生と中学生と一緒に活動して、地域の方からも感謝された。また、お餅つきの活動で一般の方と交流が生まれ、「地域の一員」を実感できる貴重な経験となっている。

(3) 地域とつながるボランティア活動

校内では、夏休みの校庭の草刈りや年度末に行われる教室や廊下のペンキ塗り、備品の補修作業を行っている。校外では、創立以来 15 年間「びわこ学園ボランティア」にP T A、子どもたちの有志が参加している。

今年度は、地域団体と連携パトロールや、通学路のトンネル清掃、下校時の見守り活動などを実施している。この活動は強制や動員ではなく、会員に自発的な参加を呼びかけることによって、参加者の意識改革に努めている。また、不審者対策の「P T Aパス」作成も会員の意識を高めている。

活動のポイントは

①子どもを地域に連れ出そう！

(幼・小・中も、異なる学年も、大人もつなぐ。それは・・・地域行事への参加だ！)

②連携は、一人から始まる！

動員して数を揃えるより、全PTA会員への「呼びかけ」が大事。数より、「ボランティア（自発）」

③地域の資源（宝もの）を発掘しよう！

「ひと もの であい」これらが、地域の力のベース 地域の教育力 ⇔ コミュニケーション量

④とにかく、参加しないことに始まらない！

何かとつながらないか？と、思ってみる。半歩ずつ重なり合う。ネットワーク。PTAは、地域の宝ものだ！

⑤親も、子どもも、先生も・・・楽しめ！ 動けば、変わる。

好きです玉川。私も参加、つくる喜び。

⑥(最後に) 家庭の教育力も・・・。

やはり、コミュニケーションが大事だ。

4. おわりに

「開かれた学校づくり」で授業や学校行事に地域の方を講師や協力者として招き、子どもたちが地域に出かけて学び、行事にも積極的に参加する取り組みが活発に行われている。

しかし、保護者の参加が年々減少している。保護者が学校に来て、子どもや学校に関心を持つように、もっと魅力的なものにしていきたい。

また、校区内の学校と地域団体や各種機関との連携を更に強化していきたい。課題は多くあるが「子どもの育ちを願わない人はいない」と、会員みんなの力で、今年の熱い思いを受け継ぎ「明るく元気に楽しく」活動していきたい。

質疑応答・研究討議

質 疑（神戸市）

やんちゃな生徒が活動に参加されているが、当校では、なかなか難しい。どのようにして参加させているのか、うまい方法があれば教えてほしい。

スクールカウンセラーの先生のことをもう少し教えてほしい。（白鳳中に対して）

コーラスに男性の参加とありますが、平日の参加を増やす何かいい方法は？（玉川中に対して）

応 答

子ども達で何かするものがないか考える中、目新しいもの（和太鼓）に飛びついてきた。青少年指導員の安川さんをお願いしたところ、取り組みを気長に続けてくれた。子どもは、徐々にそのおもしろさに惹かれていき、様々な行事に参加していくようになった。子どもが熱中していくにつれ、その輪も広がった。（白鳳中より）

先生は、大学の先生で、大学生を何人か入れた。年齢が近いので子ども達も話し易い。

放課後や夏休みに在中して子どもと過ごす。（学生チューター）（白鳳中より）

お父さんの参加というより、実は先生方です。午後7時30分から9時の短い時間で、一ヶ月に2曲練習している。時間は遅れてもよく、自由な雰囲気です。地域協働学校で地域の方とつながる中で、保護者と先生がつながった。そうした中で、先生方も徐々に熱心になった。（玉川中より）

質 疑（大阪市）

校区の小学校と連携して、危険箇所の点検をしているが、その危険箇所とは何をさすのか。また、行政の対応はどのようなものか。（白鳳中に対して）

応 答

交通、不審者等すべてです。どのように危ないか要望書を作成し、市へ提出している。その結果、街灯が設置されたりや踏切の幅が広がったり、行政はすぐに改善してくれた。また、「子どもを守りたい」という意味で子ども守り隊も組織された。（白鳳中）

質 疑（和歌山県）

目新しいものとして、なぜ和太鼓と南中ソーランなのか。（白鳳中に対して）

生徒数は何人か、不参加者への呼びかけをどうされているのか。（玉川中に対して）

応 答

旧當麻町は、北海道の当麻町と自治体交流で結ばれていて、向こうでは、よさこいソーランが盛んで、それを見るうち、エネルギッシュな踊りを教えてもらいたいという気持ちが高まった。太鼓も同じように、ばんりゅう太鼓を見て、やりたい気持ちになった。また、地域の安川さんが葛城太鼓をやっていて、それを見て更にやりたい気持ちが高まった。（白鳳中より）

生徒数は360人ぐらいで増える傾向にある。自発的に参加してくれるのと動員では気持ちが随分違う。そこで、通信等で「来たら楽しいよ。」と、月1回、2回と繰り返し呼びかけた。一人でも来てくれると「よかったなあ」と思っているうちに自然に増えた。まなぶ学校でなく、あわさる学校と考え、「何となく楽しいなあ」という気持ちで呼びかけている。（玉川中より）

質 疑（滋賀県）

行政にどのように働きかけたのか。また、フリー参観で保護者が入るとやりにくいのではないか。（白鳳中に対して）

応 答

市となって財政規模が大きくなり、各校のバランスもあるが、毎日、足を運ぶことが大切である。その時、一人より全校に求めて要望書を持って行くとよい。

フリー参観ですべてオープンにしている。参観（給食）の時に、保護者が生徒の素行等に注意してくれていて助かることもある。（白鳳中）

指 導 助 言

○助言者 北島 泰雄さん

・教育を進める上で大切なことは、地域、連携、体験 である。

〔地域〕

地域で子どもを育てる。（子どもの育ちを支える。）

小・中学校区単位で活動するのが適している。（名前が覚えられる程度）

地域とつながることによって、子どもは変わっていく。

〔連携〕

学校だけで子どもを見ると、その見方が偏っていく。

地域では、点数化できない良さを知ってもらえる。

今の子どもは、自己肯定感がしっかり持つことができない。それ故、様々な活動場面を捉えて、子どもの良さを認めていくことが大切である。

〔体験〕

何かをすることによって、人との関わりが増え、対話を進めることができる。そんな中で自然に子どもが育っていく。

P T Aの役割は、いろいろな事業を企画、運営、実践をしていくことであり、その中でいろいろな人同士を繋ぐことができる。特に、技術を持った方を積極的に活用していくことが大切である。

早寝、早起き、朝ご飯は、生活の基本であり、そうした子どもの生活リズムを作りながら、地域が更に繋がっていく。

企業にも、家庭教育に協力してくれるように、行政からも働きかけている。

学校教育と社会教育の違いは、学校は全員揃っているところから始まるが、社会は少ないところから始まる。P T Aの関わりがすぐに効果として出るものではないが、輪を広げていくことが大切である。



第5分科会 広報活動



《研究課題》

IT時代の現在、情報手段が多様化する中で、情報の共有と意識の高揚を図るとともに、会員に親しまれ、更には、子どもの健全育成に役立つ広報活動はどうあればよいかを考える。

発 表 者	和歌山県有田川町立藤並小学校育友会	会 長	上野山 栄 作
	兵庫県三田市立藍中学校PTA 「兵庫県PTA」紙前編集長	前会長	三 輪 剛 敏
司 会 者	兵庫県PTA協議会	会 長	平 良 一 夫
助 言 者	和歌山県教育庁生涯学習局 生涯学習課地域教育班	社会教育 主事	能 代 卓 夫
	兵庫県教育委員会社会教育課	指導主事	色 波 亨
記 録 者	曾爾村立曾爾小学校	教 頭	尾 上 清 男
	桜井市立大三輪中学校	教 頭	山 本 博 文
運営責任者	和歌山県PTA連合会	会 長	森 脇 勝 彦
		副会長	寺 村 多 喜

第5分科会 広報活動

楽しさから始まる育友会 ～ 参加意識を高める広報紙の役割 ～

和歌山県有田川町立藤並小学校育友会

会 長 上 野 山 栄 作

1、はじめに

本校には、児童が地域の家々を回り、図書購入の寄付をいただいていた歴史がある。しかし、安全に配慮することから現在は、育友会の会員に限定し、地区役員が各家庭を回っている。

このような歴史を持つことから、当校区では保護者だけに限らず、地域全体が子どもたちのより良い教育環境や情操教育を願っている。しかし、地域の都市化が進む中で、他地域からの転入者も多く、そのため保護者の学校に対する願いは、年々個別化・多様化してきている。

本校では『心豊かで、やる気に満ちた、たくましい子どもを育成する』を教育目標に掲げ、

＊ 豊かな感性をもつ子 ＊意欲的に取り組む子 ＊たくましく生き抜く子 の育成を目指している。

2、PTAの組織と活動内容（＊組織は要項参照）

組織は常任委員を設けているのが特色である。また、実働の専門委員会である。特に、研修部では、定期的に行われる教師と保護者の座談会で、役員と研修部員が積極的にコーディネーターを努め、子どもたちの諸問題について問題提起を行っている。また、保健体育部では、夏休みを利用し『あの山に登ろう』という事業を実施し、親と子・友達同士での山登りを実施している。

この活動を通じて、子どもたちに、がんばればできることの素晴らしさや自然に触れることの大切さを伝えている。広報部では、広報紙「ふじなみ」を年3回発行している。

3、広報部の取り組み

（1）広報紙「ふじなみ」の概要

広報紙「ふじなみ」を年3回、各学期末に発行している。子どもたちの笑顔を会員に伝えながら、今年、1学期末で第64号目の発行を迎える。

○ 主な内容

1学期—教職員紹介、5年生合宿、交通安全教室、七夕飾り、給食試食会

2学期—あの山へ登ろう、運動会、音楽会、修学旅行など

3学期—6年生寄せ書き（将来の夢、入学時記念写真）、6年生を送る会など

（2）楽しく読んでもらえる紙面づくりのために

広報部員7名全員がデジカメを持ち、育友会事業や学校行事があるときに参加できる部員が撮影し、パソコンに取り込み学期末に編集する。写真中心の広報紙にしている。完全デジタルデータとして業者に投稿し、印刷コストを押さえている。子どもたちの表情を会員すべてに伝えることが、広報部の使命だと思って取り組んでいる。

今後は、計5回の発行を目指すとともに、地域の方々の生の声をもっと取り入れ、情報発信・問題提起のできる地域参加型の媒体でありたいと思っている。

4、今後の藤並小学校育友会 ～「顔の見える育友会活動」を目指して～

今までは、本校卒業の保護者が大半で、誰の顔を見ても分かり合える環境が長く続いたが、最近、保護者の半数以上が他校の卒業生になっている。このような状況でどうしたら「顔の見える育友会活動」を行けるのかが課題である。

広報紙「ふじなみ」によって、育友会事業への参加意識への高揚が図られている。今後も充実した紙面づくりに加え、発行回数も増やしていきたい。今後は、携帯電話やインターネットを有効に活用し、会員向けに限定したサービスを模索するなど、すべての会員に紙媒体だけで伝えることができない、タイムリーな広報活動を行うことが課題であると考えている。

子どもたちよ地域の中で自己を輝かせ！

兵庫県三田市立藍中学校 P T A

平成 16・17 年度会長 三輪 剛敏

1、学校・地域紹介

設立から 15 年目の新しい学校である。ニュータウンができたことで人口が急増し、ピーク時 21 クラス 800 名以上であったが、現在は 15 クラス 562 名と年々減少している。三田市の一番西北部で、山や川に囲まれ、自然に恵まれた地域である。

運動部や吹奏楽部・探検部にホームページ担当の新聞部、美術部等・・・中には全国大会常連部もある。挨拶がしっかりでき、ハキハキして姿勢のよい子が目立つ。

地域としては、若い世代が出て行くばかりで戻ってこないのが、高齢化・過疎化が課題となっている。

2、P T A 活動の方針

「P T A は、子どもたちの応援団になろう。子どもたちの姿を地域の皆さんに紹介しよう。」これを 16・17 年度の P T A の活動方針とした。地域の会合・活動・イベントに参加し、P T A の講演会等にも取り組んでいる。加えて、広報誌「藍の泉」を年 3 回発行し、地域の人に読んでもらいことで、子どもたちを紹介している。

3、広報誌

I. 広報部

①部員構成—学級員と地区委員から 24 名。学期毎に振り分けて 8 名が担当する。

②内容—1・3 学期は見開き 4 ページ、2 学期は特集号で 8 ページ。

- ・1 学期は、P T A 役員・先生の紹介、行事案内、トライやるウィーク等
- ・2 学期は、運動会・文化祭・部活紹介・特集記事等
- ・3 学期は、卒業寄せ書き・修学旅行・スキー研修・個人の表彰等

③研修—三田市 P T A 連合会の主催のリーダー研修会に参加し、兵庫県・三田市 P T A 広報コンクールの選考をされる先生から講習を受ける。

II. 広報誌作り

学期ごとにテーマ・企画の打ち合わせを行い、先生のアドバイスを受けながら日時の割り付けをして印刷の締め切りに合わせ、何度も校正を重ねている。写真が多いがアルバムにはならないように、吹き出し等で言葉を入れて工夫している。

予算は 1 年を通して 60～65 万と、かなり高額になっている。予算はそのまま、ページを増やしたり、発行部数を増やしたりして、地域全体に回覧で読んでもらっている。

III. 成果と展望

三田市 P T A 広報誌コンクールの 16・17 年度最優秀賞、兵庫県 P T A 広報誌コンクールには 16・17 年度入賞することができた。

広報誌はアルバムではない。見た人に、素直にありのままを伝えること、言葉で気持ちを伝えること、地域の一員として認めてもらうことが何よりも大切である。

P T A は、子どもたちと社会を繋ぐパイプでありたいと思っている。子どもたちは、社会を担っていく大事な人間である。地域も、この子たちが支えていく。郷土を愛し、互いに認め合える地域人として成長してくれる彼らを、卒業しても応援したいと思っている。広報誌は永久に残るわけだから。

学校のホームページを立ち上げている。広報もタイムリーなものを作っていきたい。

4、おわりに

自分たちの住んでいるこの地域を守り、育んでいくことを目標に、P T A 活動に取り組んで行きたいと願っている。

質疑応答・研究討議

質 疑（兵庫県龍野市）

広報の経費面とソフトの使い方など技術的なことをお聞きたい。

応 答（和歌山県有田川町立藤並小学校育友会発表者）

広報の経費4万円は、予算的にはきついと思う。広報紙は500部ぐらいで、A4版フルカラーで会員に配布している。印刷屋に無理を言って原価で作ってもらっている。ソフトについては、会員に詳しい人がいるはずだ。会員を開拓して探してみてもどうか。データーにして業者に渡すのと渡さないのとでは金額にかなりの差が出る。

質 疑（和歌山県橋本市）

広報紙に写真を多く入れるとアルバムになると言いますが、広報紙とアルバムとの違いを教えてください。

応 答（兵庫県三田市立藍中学校PTA発表者）

紙面を見ればアルバムかどうか分かる。表紙の第1面はインパクトがあるので、写真などを使ってみなさんの目を引くことが大事です。ただし、枠を使って写真と文字とを交互に入れると、見ながら読むことになる。特集に写真は全く入っていない。イラスト、行間、レイアウトを考えないと、ごちゃごちゃしたものになる。運動会や文化祭などが、アルバムになるかどうかの違いになると思う。吹き出しやコメントを上手に入れると、よく分かる紙面になる。部活動の紹介には目標や部員がやりたいことなどをに入れてコメントすると、読んでいておもしろい紙面になる。

質 疑（和歌山県橋本市）

藍中学校では、アンケートを実施して有効な紙面を作っている。アンケートの実施方法はどうしているのか。また、自治会2005戸への配布方法はどうしているのか。

応 答（兵庫県三田市立藍中学校PTA発表者）

生徒と親へのアンケートは、学校の先生を通じて行い、集計は広報でしている。校区への全戸配布はしていない。これ以上、部数を増やすことは財政的に無理なのでできない。地域の170ぐらいの班に渡して回覧をしてもらっている。また、みんなが集まる場所である市民センターや公民館、スーパー、学校などに掲示をお願いしている。

質 疑（滋賀県彦根市）

写真の掲載に関して、個人情報保護法の関係で保護者からクレームがついたことが、私の所でも起きている。写真を掲載する時には了解をとっているのか。また、少子化で財政面が苦しい中、この単位PTAも苦慮されている。賛助金を地域から取っているところもあるようだが、そんなことも検討されているのかお聞きたい。

応 答（和歌山県有田川町立藤並小学校育友会発表者）

田舎のことなので子どもに関しては先生から「広報に載せるよ」と言って写真を撮っている。保護者の写真は、本人に話をしている。賛助金については、今のところ考えていない。

応 答（兵庫県三田市立藍中学校PTA発表者）

写真については、PTAのメンバーに配るだけなので、了解は取っていない。インターネットや不特定多数の所に出る場合は気をつけるようにしている。費用的にはまだ少し余裕があり、紙面を増やす方向で考えている。先程述べた教育充実資金ということで、地域から寄付を募っているので資金的には心配していない。

質 疑（和歌山県広川町）

発表の最後に不審者情報をメールや携帯の媒体を使って発信していると話された。そこで、情報をどのように活用したり、管理をどのようにしたりしているのか。

応 答（和歌山県有田川町立藤並小学校育友会発表者）

メールアドレスを収集しているのは役員や委員だけである。育友会のパソコンのアドレス帳の中にグループを作って、何かあった場合にメールで知らせるようにしている。

質 疑（和歌山県広川町）

不審者情報は、一般の会員もすぐに欲しい情報です。しかし、役員だけが知っていて、他の人が知らなかったと言うことで問題になったことはないか。

応 答（和歌山県有田川町立藤並小学校育友会発表者）

全員に知らせられるようにしたいが、今のところ全員に知らせる場合は学校からの通知文で知らせている。

応 答（兵庫県三田市立藍中学校PTA発表者）

兵庫県には防犯ネットがあり、PTA役員がアクセスして自動的に情報が入ってくる。また警察が関知したときには、直接、学校に連絡が入るので、学校が対応して保護者に知らせることが多い。

質 疑（奈良県大和高田市）

本校では広報紙を年3回発行している。このような記事を載せたいので、担当の先生に承諾を得ようとするのだが、なかなか規制が厳しくてワンパターン化し、自分が作りたい広報紙がなかなかできない。例えば、「職員室の雰囲気撮らせて下さい」と申し込んでも断れたり、先生に「100万円あったらどう使うか」などのアンケートを採ろうとすると、「どういう意図か」と問われたり、写真もアップで撮るのはダメと、規制がある。何かをやっているという、雰囲気だけの写真になり、広報部としては大変やりにくい。そのあたりはどのようにされているのか。

応 答（兵庫県三田市立藍中学校PTA発表者）

「新聞って、何でしょう」ということではないか。新聞は目的があって作るものだ。目的が公でなければ、ゴシップ記事と変わらなくなるので、気を付けた方がいいのではないか。写真もみんなに見せておもしろいじゃなく、「啓発される」とか「前向きになれる写真」はいいが、ただおかしいだけの写真は問題があるのではないか。

応 答（和歌山県有田川町立藤並小学校育友会発表者）

何のために広報を作っているのかというと、育友会の活動をみんなでやりましょうという思いを込めてやっているの、学校の先生に反対されたことはない。ただ昔、先生の変なことを書いて問題になったことがあったと、先輩から話を聞いている。

質 疑（奈良県奈良市）

不審者メールは学校配信されていますか。藍中学校のホームページはPTAで運営されているのか。藤並小学校の「あの山に登ろう」という行事の日程や場所、決め方について聞かせてほしい。また、プール開放の保護者の当番は、どの程度の期間されているのか。それから広報委員は、本校では嫌われ役ですが、苦勞されることはないか。

応 答（兵庫県三田市立藍中学校PTA発表者）

本校のホームページは学校で運営している。また、個人的に持っているだけで、グループ配信はしていない。学校には警察から直接に連絡が入っている。

応 答（和歌山県有田川町立藤並小学校育友会発表者）

「あの山に登ろう」は、夏休みに開催し、朝6時集合、7時出発で暑くなる前に行っている。ここ6年間ずっと続いている。保健体育部と役員で話を決めて決めている。今年も、クイズ形式を採用したりして、毎年、少しずつ違う形で行っている。また、NPOが協力してくれるので、やり易い面もある。プール当番は、全保護者が一日だけ当番をする。交代は地域の中で行っている。広報が嫌われるのはあまりなく、和気あいあいとやっている。また、何年かする人と次の人が入り、ジワジワ入れ替わるので、広報部員を集めるのが難しいということはない。

応 答（兵庫県三田市立藍中学校PTA発表者）

本校の広報部は、学期ごとに担当者を分けている。1学期間だけということで、当初は広報が一番人気だった。しかし、コンクールで2回続けて最優秀賞をとった時は、プレッシャーがかかり減ったことがあったが、最終的には会員の割り振りができているので、20数名が集まり、くじ引きで

割り振りを決めている。ただ1回やればいいということと、コンクールに入賞すると2万円ぐらい貰え、お茶やケーキ代などの経費に充てる楽しみがある。広報は、自分たちで手を加えると安くなるし、手を加えないで構成などを印刷屋に依頼するとお金がかかり、どんどん高くなる。労働をたくさんすると安くなるので、これからは人気が落ちるかもしれない。

指 導 助 言

助 言 者 熊代卓夫さん

藤並小学校、藍中学校、それぞれに工夫した広報紙が作られている。これからは、地域や地域住民という視点をもっと大事にしなければと思う。昨今、学校と家庭だけでは解決できない問題がいろいろある。地域の方に、学校での子どもたちの様子やPTA活動の内容を伝えることが、地域の方の協力を得られることにも繋がるものだと思う。

全国大会での宮崎市のある女性広報部長のお話。「広報になり手がない。惰性で作っている。私は広報部長としてそんな流れで作りたくなかった。会員と一緒に、なぜ広報活動をするのかを年度始めに話し合った。」と語っていた。そうすることで、1年間、何を目的に広報活動や広報紙作りをするのかが整理される。組織の活性化や家庭教育など、自分たちが取り組み易い内容を年度始めに話し合いすることだ。また、PTA離れや仕事で来られない方もいる。PTAへの関心をずっと保ってもらうために広報活動は大変大事である。

広報紙作りのポイントは、PTA組織の中に広報部があることと、募集などをしてやる気のある人を見つけることが必要です。レイアウトは、地域のノウハウを持った人にアドバイスを貰うこともできる。取材は、現場に出向くことである。原稿の依頼は、テーマ、分量、締め切りなどを丁寧に説明する。記事は、意見交換できるもの、一方通行にならないもの、生の声、地域の声が反映されるものにすることが大切である。

宮崎県串間市役所の広報が、全国自治体広報紙コンクールで優秀作に選ばれた。その担当者が広報の使命は3つあると言っていた。①市民が地域に誇りを持てること。②地域の再発見につながる。③広報を読んで市民が行動を起こすこと。これをPTAに置き換えると、子どもや会員が校区に誇りを持てるもの、校区の再発見をする、子どものために保護者・地域の方がアクションを起こすことになる。こういうことが期待できる広報紙を具体化してもらいたい。広報紙作りは大変であるが、知らなかった人と取材を通じて知り合えたり、地域の方と仲良くなったりするという良さがあります。広報部はPTAの活動では横断的で、すべての部が見え、すべての部の活動を確認できる部である。もう一度、広報活動の意義を確認されたらどうだろうか。

助 言 者 泉 廣治さん

広報紙の持つ可能性と重要性は、両校の発表で言い当てていると思う。藤並小学校の『顔の見える関係をつくるための広報紙でありたい』、また、藍中学校の『子どもたちを地域で育てていただくための支援としての広報紙でありたい』と言う言葉は、子どもの健全育成や教育は地域抜きではできないし、そのためにPTAの果たす役割や広報紙の役割が、いかに大きいかということである。また両校は校区の様子がかなり違う。藤並小学校は、親と子が同じ風景を見ながら育った学校で、藍中学校は、多様な人たちが集まった校区である。学校を一つの核として、どうやって地域の心をついに束ねていくかが、PTAの広報紙が果たす大きな役割であると思う。そういう意味で、広報委員の仕事は、地域づくりそのものに関わってくる存在であると言える。日本社会は戦後、煩わしい関係を排除して、楽に生活できるような社会をみんなが求めた。その煩わしさにもう一回、親や地域の人たちが、一緒にチャレンジすることが必要なのではないか。煩わしさにもう一度戻ってもらう第一歩が、広報紙作りをする広報委員であると思う。これからの教育の中で地域の方は、親や学校と同じ主催者側になってもらわなくてはならない。主催者側に呼び込むために、広報紙の役割は非常に大きいといえる。

そういう意味で、広報紙がもっと良いものになるために、いくつか提案をする。広報紙はPTAの機関紙であり、PTA活動が見えないものはおかしい。記事は、現状を変えていくための内容、考えてもらうための内容、知らせるための内容、記録のための内容をバランスよく配置することである。また、写真が何かを生み出すきっかけになっていることが大切である。

広報紙が出来上がったら客観的な評価会をすることだ。経済的なこともあるが、配ることが大事である。兵庫県では、県民すべてが関わる兵庫の教育と言うことをスローガンにP T AにC（Cはコミュニティー）を加えてP T C A活動をしている。地域との繋がり、広報紙の持つ意味は大きい。顔写真などの個人情報に過剰反応することはよくないが、意識だけは持つておくことが大切である。

最後に、地域社会の地縁を再生することは難しい。しかし、この地域の子どもたちの豊かな成長を見守りましょうという志を持った人たちを集めて、新たな縁をつくることはできる。P T Aが結束すると社会や地域を変える大きな存在であると言うことを広報紙で謳って欲しい。



特別分科会



《研究課題》

学校・家庭・地域が連携して、子どもたちの育成に寄与する

～みんなで育てる子どもの未来（ゆめ）～

テーマ：「学校・家庭・地域の連携による子どもの育成」

～みんなで育てる子どもの未来～

<基調講演> 「子どもを育てるみんなのまなざし」

－教育の連携の基本原理－

講 師 豊 田 弘 司 氏 （奈良教育大学教授）

<パネルディスカッション>

コーディネーター 豊田 弘司氏

パネリスト 西川 隆彰氏（県教委生涯学習課長）

水野賢太郎氏（南都銀行人事部係長）

河合 孝信氏（片桐西小学校教諭）

安田美紗子氏（NPO 法人「都南地区教育振興会」副理事長）

峯本 信子氏（元上之郷小学校PTA会長）

豊田氏

・今日ご出席の皆さんは、それぞれの分野で活躍されている方ばかり。これまでの活動を含めて自己紹介をお願いしたい。

水野氏

・南都銀行人事部で研修や採用面接を担当し家庭では2人の男子の父親である。地元のサッカーチームのコーチとして、小学1年と幼稚園児の指導をしている。企業と父親の立場で意見を述べたい。

・子どもを明るく健全に育てる大切なポイントは、多くの大人が子どもに係わり磨き続けることが大切である。若い人には個性的な人はいるが、みんな可能性を持っている。だめだと突き放さず、叱って磨くことが大切である。言って聞かせ、やって見せて、手をかければ、大人でも成長するのだから子どもはもっと成長する。

・サッカークラブで小1と幼稚園児の練習中、上手な子が幼稚園児に「この子がいると負けるからイヤ」と言った時に監督は小1の子どもの膝をついて視線を合わせて「チームはみんな仲間。君が教えてあげたらうまくなる。」と話した。その子は次から教えるようになった。わかるように言って、心に響かせると子どもは成長する。大人も子どもも、言って聞かせ、やって見せて手をかけ、決して見て見ぬふりをしないことが教育の基本と考えている。

・地域の役割について、父親が地域活動に頑張っていて欲しい。サッカーの練習を見に来た父親に、声をかけると練習に入ってくる。夏祭りなどのイベントでも声をかけるまで待っている。地域のふるさとづくりに父親を引き込んでいくことが大切である。

・南都銀行の地域活動として、全日本で優勝した女子ホッケー部が小・中学生対象に南都ホッケースクールを開いた。選手の行員が目を輝かせて指導していて、大人としての成長に役立った。

・小さな親切運動奈良県本部主催のクリーンアップふるさと美化活動の世話役として、県内各地でお手伝いさせていただき地域と交流している。これからも地域と積極的に係わっていくつもりである。

峯本氏

・3人の娘の母親の立場で、家庭での役割ということで発表したい。家庭の役割や求められることとは、暖かさや団らん、語らい、優しさ、気の抜けるくつろげる場所、生活の基礎基盤、一般常識を植え付ける場である。

・3歳までに徹底して絶対にやってはいけないこと、特に命にかかわることは厳しく躾てきた。子どもを褒めたり、叱るのは、親として大切な役目である。褒めたり、叱られたりしたことは人間形成や心を育てる上で大きな意味がある。

・社会にはルールがあり、常識がある。子どもはいつまでも親に守ってもらえないから、幼児期にしっかり躾るのが大事であるし、それが家庭の役割でもある。時には、ぐっと子どもを抱きしめるのもポイントである。

・学校に通い出したら、新しい体験や辛い体験もするので、親が相談相手になる。勉強は学校に任せ、家庭では心のケアと生活態度に目を向け、子どもが送る信号を絶えずキャッチできる親でありたい。

・褒める時は間をおかず全身全霊で褒める。子どもにとっては、父や母の褒め言葉が最高の褒美である。褒めている親も褒められている子どももいい顔になる。

・上之郷小学校は、生徒数が少ないのでソフトボール大会にはスポーツが得意不得意にかかわらず、4～6年生全員が参加する。自分は10年間指導と監督をした。練習中、みんなを発憤させるため、我が子に厳しい言葉を浴びせた。その時「練習中は母と違う、あなたはみんなと同じ選手。あなたが頑張ったらみんな頑張るから。」と涙したこともある。練習では絶対できるという気持ちを伝えた。

・地域の子どもたちは、自分の子どもと同じだと思っている。保護者はみんな理解してくれ、PTA会長の時に応援うちわを222枚作った。子どものためならニコニコ顔で全員参加してくれた。

・親は叱る時も褒める時も真剣勝負。真剣に目を見て話していると、子どもも答えてくれる。その時、反発をかって後になつたらわかってくれる。我が子のために叱ることができる親にならないといけない。「これぐらいは」や「そんなことぐらい」ですましてはいけない。親が目を向け

なければ中途半端な大人になっていく。

西川氏

・県では2035年を目標年次として、6つの将来ビジョンで構成した「やまと21世紀ビジョン」を作成し、「世界に光る奈良県づくり」を目指し、取り組みを始めている。また、「奈良県教育の日」や「教育週間」を定め、昨年度は学校や園に35万人の保護者や関係者が足を運んでいただいた。

生涯学習課では「みんなでつくろう、地域の教育コミュニティ」のリーフレットを作った。ぜひインターネットで見て欲しい。

・養護学校へ赴任した時に気付いたこととして、先生はスクールバスで生徒が登校してから下校するまで職員室に戻らなかった。連絡帳なども、きめ細かく書いていた。その後、別の養護学校では保護者が子どもを送ってきた時、先生が保護者と子どものことで話し込んでいる姿を見て、連携以上の繋がりがあると思った。

・保護者も先生も大変明るかった。教育委員会のメールマガジンに「人は楽しいから笑うのではなく、人は笑うから楽しくなる。」と書いた。先生は生徒が登校すると笑顔になり、笑顔になると心が明るくなる。先生が生徒に癒されていた。

・先日の奈良県公民館連絡協議会大会の講演で、元NHKアナウンサーの村松さんが「こんにちはという表情が声をつくり、声が表情をつくる。彩りを添える。」と話された。ことば文化研究所のデータでは、言葉1・口調3・表情6で相手に伝わるという。自分の顔は自分で作るもので、笑顔が一番大事。

・ある寺の住職であった先生に「和顔悦色施」という言葉を教えていただいた。笑顔は周りの人に喜びを施しているとのこと。また、「防舍施」という言葉も教えていただいた。夕立の時、軒先は雨宿りができる空間を提供しているということで、軒先も他人に施しを行っているという意味だそう。防舍施の気持ちがいいるのではないかな。

河合氏

・大和郡山市立片桐西小学校で5年の担任をしており、教職25年のほとんどを5・6年の担任や生徒指導、体育関係の仕事をしている。

・学校では安全に向けた取り組みをしている。今まで開いていた校門は閉まり、鍵をかけたりPTAに立ってもらっているところもある。職員は首から職員証をかけ、PTAにも付けてもらい子どもを見守っている。

・帰りの会の後も日直や宿題を忘れた子どもが残っていたが、今は見られない。本校でも毎日、授業が終われば児童を運動場に並べ、人数の確認をして帰る方向が同じ子を集め、帰らせる。教師は校門まで送り、保護者が校門に来て迎え、途中でも迎えがいる。いたるところに保護者が立ち、地域の方も見守り隊として活動している。

・「子ども110番」では、何かあったら旗の出ている家に駆け込んだら助けてもらえる仕組みになっている。ある時、子どもが10円を拾い子ども110番の家を持って行った。子どもは交番と思い、何とかしてくれると思っている。地域、学校、社会が連携・連帯していかなければならない例だと思う。

・朝食を食べてこない小学生が報道されているが、疑問に思う。修学旅行や野外活動、社会体育で子どもを大会に連れて行くと、朝食をよく食べている。子どもが朝食を作ってもらっているのに食べてこないのか、作ってもらっていないのかわからない。作ることができない忙しい世の中になってきているのかもしれない。

・夏休みにラジオ体操がある。最近、6時30分からやっていたら、地域からやかましいと苦情があったのでやる場所がない。また、親も忙しく出て来られないから、録音して7時30分からやっている。時代を感じてしまった。

・私は社会体育でスポーツ少年団を指導している。バレーボールで1年から6年の男子30人を指導している。指導の立場から、人を育てるのにはリーダーも育てることが大切である。若い指導者が育ってきていない現状がある。

安田氏

・都南地域教育振興会は奈良市の南部の5つの小学校がある都南中学校区の中で生まれた。6年前、都南中学校が当時の文部省の生徒指導連携推進事業を受け、6校の学校長とPTA会長、奈良市教育委員会の協力で推進委員会が発足。大学院生による子どもや保護者の悩みの相談を受ける地域スクールカウンセリング事業をスタートさせた。学校連携推進事業では、各学校でワーキンググループを作り、小学校5校と中学校とが連携をとりスタートさせたことも特徴がある。

・平成13年に事業の方向を修正し、地域スクールカウンセリング事業を中心に、臨床心理士が入った。1日5万円の予算が必要で、2年間は生徒指導連携推進事業ですすめていた。事業の終盤に継続が必要となりNPO設立を検討した。ハートネット設立のための記念講演会で、『がんばろう神戸』をNPOで立ち上げた時の話をしてもらい、同時に、自分達が目指すNPOについても説明した。

・平成16年6月NPO法人都南地域教育振興会を設立、理事長は中学校のPTA会長にお願いし、校長先生とともに作り上げた。地域のいろいろな職種の方に参加してもらい、豊田先生にもお願いして活動している。

・現在は文部科学省からの直接委託の「不登校への対応におけるNPO等の活用に関する実践事業」の2年目に入っている。理念は学校を拠点に、子どもたちの教育を発信し助ける保護者でありたいということである。子どもがよりよい社会の一員になるよう、学校・地域・家庭・PTAとあらゆる連携をとり、ハートネットで地域を繋ぐ心のネットワーク化をすすめている。

・3つの柱があり、地域スクールカウンセリング事業では、臨床心理士に払う謝金のために会員を集め募っている。地域の中で体験プログラムを立て大学生と一緒に子どもを小浜に連れて行ったり、11月には星田園地へ地域の小中学生を連れて行く。社会体験プログラムとして12月に、5つの小学校が合同で都南中学校において大きなイベントを行う。小学校毎のバザーや卒業生や地域で活動している保護者の演奏や踊りなど、先生も会員もPTAもみんな協力してスマイルフェスタを開催している。

「子どもが元気で明るく、どの子にも輝く笑顔と学ぶ喜びを」を合い言葉に先生と保護者と一緒に子どもたちを応援したいと活動している。

豊田氏

子どもという言葉が多く出てきた。子どもにかける愛情が、母親や教員など、それぞれの立場から熱い思いを語ってもらった。

・本日のテーマは家庭と学校と地域が連携をすることに対し、次はパネラーから家庭ということで提案をお願いします。

安田氏

・PTA活動が続けるには、家庭の協力が必要である。地域の中で子どものためにPTA活動に出てほしい。

水野氏

・地域の活動（サッカー）に参加するのは大好きである。町にはいろんな行事があり「お月見泥棒」というのは、各家庭でお菓子を入れたカゴを置いてあり、その日は泥棒になっても良いというのがある。子どもはたくさんのお菓子を持って帰る。地域の方が子どもの喜ぶようなことをしてくれている。住んで良かった、この町が大好きである。（暖かく包む町である。）このように、地域の活動を通して温かく活動が続けていきたい。

豊田氏

・このように、ここに住んで良かったと思うことが、地域のまとまりに繋がるのではないか。

峯本氏

・私の子どもはきびしく寝てきた。自分のできることはどんどんさせている。（家には主婦が4人いる？）家庭は、何でもできる力を付けるところである。

豊田氏

- ・一人で生きていく力を付けるのが教育の目標である。学校という立場で何か。

河合氏

- ・子どもたちが、教室で携帯の話で料金が高いことを話している。携帯電話にGPS機能が付いているのを、防犯とうことで持たしたいという話をよく聞く。また、インターネットもゲームが発達し、初期のものと比べるとひどいものがある。

豊田氏

- ・子どもはテレビやゲームの影響を受けている。次にクラブの指導について。

峯本氏

- ・中学校には、子どもが一所懸命やっているのに部がない。(顧問の先生がいらない)

河合氏

- ・私も小学校の子どもにバレーを教えているが、中学校は部の数が減っているのが現状である。10年も前から東京では就学自由化となっている。奈良県でももう少し選択肢を持つことが必要である。また、全て学校にまかせている。(スイミングを習っている。)

西川氏

- ・知人の子どもは剣道部のある私立学校へ入学。クラブに関しては、学校の教員が指導できない場合、外部指導者の導入というものがある。なお、奈良県でも生徒の数が減って、各学校の教育活動の活性化を図るために県立高校の再編・統合があったともいえる。

豊田氏

- ・地域で、また、学校同士も協力しながらカバーしようということ。地域に関してはどうですか。

西川氏

- ・昔は地域に3つの「間」があった。あそぶ「仲間」「空間」「時間」があったが今はなくなった。千葉大の明石教授が「食べっぷり」「遊びっぷり」「友だちどうし付き合いぶり」が大事であると言っておられた。家庭ではお母さんが必要である。おおらかな、たくましいお母さんであることが大事である。子どもが最初に出会う教師はお母さんである。

豊田氏

- ・食べ物を大切にする感謝の気持が育って欲しい。そのためには、家庭での母親の役割は大切になってくる。地域活動を大切にするには何か？

安田氏

- ・NPOとして学校と連携をとっている。地域を知ろうということで体験談を子どもの前で話してほしいという依頼が理事長にあって話をした。子どもから、「何のためにそんなにするの?」「ボランティアはお金も入らないのに」という声があった。子どもたちの普段の思いがNPOと連携することによって、学校も地域の子どもたちを通して教わった。

豊田氏

- NPOの活動を通して、子どもたちの側面を知ることができ、大人も子どもたちの声を聞くことができた。

質疑応答・研究討議

質疑（河内長野市）

- ・PTA活動をしていく中で、親をどのように育てるのか。

応答（豊田氏）

- ・親同士で、共にする活動をするとうまくいく。そのためには、きっかけを作る必要である。そのきっかけを作るためには、リーダーが必要である。

質疑（滋賀県）

- ・PTA活動で学校と家庭をつなげようと活動してきた。不登校の子どもに声もかけられない状態である。アドバイスをお願いしたい。

応答（西川氏）

- ・昔は学校が楽しくなくても、家に帰ると別の遊ぶ集団があった。カウンセラー的な友人が必要である。

（豊田氏）

- ・個人でいろいろなケースが原因である。早く対応する必要がある。

質疑（生駒市）

- ・社会性を身に付けることが必要である。指導者の問題等もあるが、社会性を付ける窓口であった中学校の部活動を活発にするための施策等があればお願いしたい。

応答（西川氏）

- ・複数の中学校で合同練習をしたり、外部指導者の導入というものもある。いずれにしても、教員が情熱をもって部活動を行っており、保護者の協力が必要だ。

（豊田氏）

- ・教員なり、保護者もコアになってやることが子どもたちのためになる。

質疑（京都市）

- ・PTA活動で朝のあいさつ運動をしているが、活動を続けてこられて何か思いがあればお聞きしたい。

応答（峯本氏）

- ・子どもの数が非常に少なかった。子どもの試合を見て、指導することになった。指導は5月から学校で指導した。子どもが一所懸命する姿に地域の方は協力をしてくれた。

豊田氏

- ・パネラーや皆さんから連携の大切さを教えてくださったと思います。ありがとうございました。



総 括 会



【大会総括助言】

(奈良県教育委員会事務局生涯学習課課長補佐 戸田忠志様)

本日は、近畿各府県政令都市から2千人以上の方がこの研究大会にお越し頂きました。本当にありがとうございます。というか、本当にお疲れ様でした。幸いにも天候に恵まれ、朝はやや冷え込みましたが、奈良の秋を満喫して頂き、また研究成果も大いにあげて頂いたと思っております。研究大会の総括助言という大役を仰せつかり非常に緊張しておりますが、私なりの感想を述べながら総括していきたいと思っております。

まず午前中ですが、全体会に続いて見城美枝子先生のご講演がありました。皆さんもお聞きになった訳ですが、先生のお話の中で出てきたキーワードが心に残り、それぞれの方がいろいろな受け取り方をされたことと思います。講演会の後、文化会館の前に出てみますと参加者の皆さんがお弁当を食べながら次のようなお話をされていました。「私はあの『ハラ』になれるかなあ？」とか『愛のシャワー』を注がないかなあ」と。私は、この人たちはあのキーワードにこんな想いをもちたのか、こういう実践をまねていくんだなあと思いました。

午後からは6つの分科会が4つの会場に分かれて行われました。私は藤野会長と一緒に駆け足で各会場を回らせて頂きました。分科会の全てを見られませんでした。拝見させて頂いたところの感想を述べさせていただきます。

まず第1分科会は、『組織と運営』というテーマでした。『保護者全ての参画を目指す取り組み』であるとか、『子どもの安全を守るための取り組み』を紹介されておりました。いわゆる『組織』の問題です。できるだけ多くの人に、いかに参加してもらうか？特に父親の参加に関するお話がありました。また、大阪の小学校の事件を契機に『子どもの安全』をいかに守っていくか？校内パトロールをどうするか？ということをして6年間試行錯誤しながら取り組んでこられた発表がありました。なかなか「言うは易し、行うは難し」で、いろいろな工夫をされていました。「見回りノートを作った」などの発言に、今後の実践の良い参考になるだろうと思いつきながら聞かせて頂きました。

次に第2分科会は『生涯学習』というテーマで開かれていました。『親子で共に学び合うPTA活動』と『学校とPTA活動と生涯学習ルーム活動の連携』という二つの実践発表がありました。最初の発表では、親が社会人講師として子どもに教えることによって、いつもと違う親の姿を子どもに見せることができるし、親も新しい経験をすることで感動を覚えるというものでした。もう一方の発表は、生涯学習ルームで読み聞かせの講座を受けた保護者が小学生に読み聞かせをする、学ばせていると共に自分も学んでいることを教えられるというものでした。これからの生き方の中で非常に教えられる発表でありました。

第3分科会は、『人権教育』です。『自分たちの学校を日本一にしたいんや！』という発表と『セーフティーネットワークシステムにおける人権』という発表でした。最初の発表は生徒の叫びに動かされ、いろんな困難や差別事象に向きあい、周りの学校や地域を巻き込んで取り組んだという実践発表でした。もう一つの『セーフティーネットワークシステムにおける人権』というのは、子どもの安全に関わることで、ITシステムを利用して子どもを守ることだそうです。パソコンや携帯電話を利用するそうですが、ネットに流す情報の内容に対して、被害者の人権や情報の正確性という問題が派生して、大変ご苦労されたということです。取り組みの中で様々な課題が出てきたという、問題提起の発表でして、発表者のPTA活動の限界性を感じたという発言が大変印象に残りました。また、質疑応答の中では外国籍の方が日本で生きるアイデンティティーについて質問されておりました。「これはイジメと同じ体質ですね、異質を排除するとか、同化を強要するのではなく、それぞれの人権を尊重していくべきである」と助言者の方がまとめられていました。

第4分科会は、『青少年健全育成』がテーマでした。『中学校から地域への文化の発信』という発表と『輝け！玉中』です。いずれも目の前の生徒と向き合いながら『よさこいソーラン』や『おおさかメチャハッピー祭り』への参加をとおして子どもたちの危機的状況を、単に決められた活動ではなく、工夫した活動をしていこうという熱い発表でした。スクールカウンセラーと青少年指導員が連携して子どもたちのエネルギーを「正の方向」に導いた。助言者の方はこの活動の基本にあるのは「つながりではないか」と言っておられました。助言者はまた、「教育はやっぱ実践であり、理屈がどうこう

ではない。共同作業でやるべきだ。」とまとめておられました。助言者の言葉をそのまま借りると「教育は稲作のようなもので、手間暇かけて目の前の子どもを見ながらやっていく。けれどもうまく育つかどうかはわからないところがある。けれどもやっぱりやらないかん」と。

第5分科会は、『広報活動』の部でした。『楽しさから始まる育友会』と『子どもたちよ 地域の中で自己を輝かせ！』というテーマでした。いずれも共通しているのは広報誌の大切さということでした。子どもたちの生き生きとした姿をいかに伝えていくかを工夫することが発表の中心でした。質疑の中では、予算に苦勞していることや掲載する子の個人情報に関する話も話されていました。助言者の方は、「いろんな問題を含んでいるけれど折り合いの付け方はあるだろう」とまとめておられました。

最後に特別分科会ですが、奈良県のPTAのコーラス部の合唱で始まり、基調講演、パネルディスカッションと進みました。テーマは『学校・家庭・地域がいかに連携していくか』ということでした。言い古されていることですが、学校・家庭・地域がバラバラでは教育は成り立ちません。いかにして、その輪を、共通項を広げて被せていくか。最後は大きな一つの円になればいいなあ、という話を中心にあつたように思います。

学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たすと言うよりは、この三つがそれぞれの役割をまず知ることです。ところが、知っていてもなかなかできないこともあります。その時にお互いが上手くカバーして、そして最後に大きな一つの円になるようにしたい。勿論そのためにはリーダーが必要です。リーダーは非常に大きな存在です。また、一方ではそのリーダーを育てることの必要性という話もありました。皆さん方にリーダーの役目を引き受けてもらえれば、なんとか道が開けるのではないかと、という方向で論議されていたように思います。

以上、各分科会の様子を紹介させていただきましたが、もしかしたら私の聞けなかった所でこれ以外の論点があつたかもしれませんので、それにつきましては皆さん方で情報交換をしていただきたいと思います。

子どもたちを取り巻く環境は、今、大きく変化しております。それはある意味、世の中の大人たちの問題でもあると思います。それが、一番弱い子どもたちに反映する、子どもの社会はまさに大人の社会の鏡なのです。そうであるなら、社会を変え、大人も変わらなければなりません。

私も教育の立場に立っている者です。子どもたちに語らいながら教育をすることで、社会も変えることができるのではないかと、強く思っております。今回の発表の中にもそういう取り組みがあつたように思います。

本日の大会では、近畿各地から様々な発表がありました。地域や環境が違うのでそれぞれの取り組みを、そのままねることはできませんが、取り入れられるところや創意工夫できる所をそれぞれの地域に持ち帰って頂いて、是非とも活かして頂きたいと思います。

本大会のテーマでは「未来」と書いて「ゆめ」と読みますが、子どもが夢を語れ、未来を語れるような、そんな社会をつくるためにお互いに努力していきたいと思います。

最後に、「今日学んだあなたは、明日の先生」という言葉があります。今日、学んだことを是非、明日から皆さんの地域で実践して頂きたい、今日の大会の成果が上手く生きてほしいと願いながら、非常に拙い総括ではありましたが、皆さん方の今後の努力をお願いしまして、まとめとしたいと思います。どうもありがとうございました。



大会宣言



第三十二回 社団法人日本PTA近畿ブロック研究大会 奈良県大会は、「大和からの発信！！『でっかい夢をもとう！ 翔ばたけ世界へ』～子どもと大人で輝く未来（ゆめ）を創造しよう～」の大会スローガンのもと、「青丹よし奈良の都・・・」と謳われ、まもなく遷都千三百年を迎える古都奈良において開催しました。

今日、子どもたちを取り巻く環境は急激に変化・進展し、科学技術は進歩したものの、様々な問題が大人と子どもの意識や行動に大きな影響を与え、その歪みの中で子どもたちの健全育成に憂慮すべき状況が生み出されています。子どもが被害者、また加害者になる事件が頻発し、中でも「命」に関わる問題が続発しています。人間社会の基本理念である人権尊重・相互信頼と、規範意識・正義を基盤とする主体的な生き方の確立が急務となっています。

こうした中で、今こそ私たちは課題を自分のものとして真摯に受けとめ、自己の生き方を見つめ直さなければなりません。二十一世紀を担う子どもたちのために、具体的な行動によって課題を解決し、状況を改善していくことが求められています。

私たちは今日、すべての子どもたちが、でっかい夢をもって世界へ大きく翔ばたき、輝く未来（ゆめ）を創造できる社会を築くという強い決意のもとに、みずみずしい感動が息づく街、奈良に集いました。この強い思いの中で本大会を開催するにあたり、実践の交流をとおしてPTAの果たすべき役割を再確認し、責任ある生き方と行動を自覚して新たな一歩を踏み出すことを誓い、次のとおり宣言します。

一、私たちは、子どもたちが夢に向かって「たくましく生きる力を身につけ、豊かな心を育むこと」のできるPTA活動を推進します。

一、私たちは、命の尊さと生きることの大切さを学び、他者の痛みを知ってお互いを認め合う「人権と共生の世紀にふさわしい感覚を育む」PTA活動を推進します。

一、私たちは、子どもたちの緊急課題である安全の問題が、大人社会のあり方に起因していることを認識し、安全で安心できる社会を構築するため、「子どもたちを取り巻く環境の整備によりいっそう取り組む」PTA活動を推進します。

一、私たちは、学校・家庭・地域の連携の核となって相互理解を深め、子どもたちの夢を支援できる社会を実現するため、「生涯学習に積極的に取り組む」PTAを推進します。

一、私たちは、個人としてのみならず、社会の一員として存在することを自覚して行動し、PTA会員相互の連携を図り、「ともに尊重し高めあう」PTA活動を推進します。



平成18年度近畿ブロックPTA協議会理事名簿



	氏 名	事 務 局 所 在 地	電話・FAX・メール
滋 賀 県	岡田 隆彦 小巻 おさみ 田中 伸芳	〒520-0044 大津市京町四丁目1-1 滋賀県教育委員会生涯学習課内	TEL 077-522-3795 FAX 077-522-3795 メール ptashiga@jungle.or.jp
大 阪 府	坂口 一美 松田 頼告 有田 義昌	〒536-0016 大阪市城東区蒲生2-10-28 大阪府城東庁舎内	TEL 06-6939-9331 FAX 06-6930-2632 メール jimukyoku@fu-pta.net
和歌山県	森脇 勝彦 寺村 多喜 狭間 勇人	〒640-8156 和歌山市七番25 和歌山市立伏虎中学校内	TEL 073-431-7706 FAX 073-431-7055
兵 庫 県	平良 一夫 堀内 美智子	〒650-0004 神戸市中央区中山手通七丁目28-33 兵庫県立産業会館五階	TEL 078-361-8181 FAX 078-361-8016 メール hyogopta@pearl.ocn.ne.jp
京 都 府	竹田 隆司 村松 恵子 保田 剛毅	〒602-8054 京都市上京区西洞院通下売上ル 京都府庁西別館三階	TEL 075-431-8447 FAX 075-451-2566 メール kytfupta@mxl.alaha-web.ne.jp
大 阪 市	西岡 義治 坂根 裕子 坂元 健一	〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35 大阪市立中央青年センター内	TEL 06-6942-0610 FAX 06-6946-0592 メール osksipta@crest.ocn.ne.jp
神 戸 市	志水 のりこ 今田 学志 岸本 隆昌	〒650-0044 神戸市中央区東川崎町一丁目3-2 神戸市総合教育センター内	TEL 078-360-3453 FAX 078-360-3454 メール info@pta-kobe.jp
京 都 市	山名 裕 四方 有紀 大澤 勇	〒604-8401 京都市中京区聚楽廻松下町9-2 京都市生涯学習総合センター内	TEL 075-801-4796 FAX 075-801-4798
奈 良 県	藤野 良次 吉川 敬代 橋本 佳壽夫	〒639-2135 奈良県葛城市寺口 奈良県社会教育センター内	TEL 0745-69-6950 FAX 0745-69-6950 メール jimu@naraken-pta.jp



日本PTA近畿ブロック研究大会開催地一覧



回	期 日	開 催 地	会 場
1	昭和 50 年 9 月 12 日	大阪市	大阪市教育青年センター
2	昭和 51 年 12 月 4 日	大阪府	大阪コクサイホテル
3	昭和 53 年 2 月 3 日	神戸市	神戸市立婦人会館
4	昭和 53 年 12 月 8 日～9日	京都市	国立京都国際会館
5	昭和 54 年 12 月 7 日～8日	滋賀県	大津市民会館
6	昭和 55 年 12 月 5 日～6日	奈良県	奈良県文化会館
7	昭和 56 年 9 月 4 日～5日	兵庫県	兵庫県立淡路勤労センター
8	昭和 57 年 11 月 5 日～6日	京都府	亀岡会館
9	昭和 58 年 10 月 7 日～8日	和歌山県	和歌山県民文化会館
10	昭和 59 年 11 月 9 日～10日	大阪市	大阪市中央公会堂
11	昭和 60 年 11 月 8 日～9日	大阪府	大阪府青少年会館
12	昭和 61 年 11 月 7 日～8日	神戸市	神戸国際会館
13	昭和 62 年 11 月 6 日～7日	京都市	京都会館
14	昭和 63 年 11 月 11 日～12日	滋賀県	大津市民会館
15	平成 元 年 11 月 17 日～18日	奈良県	奈良県文化会館
16	平成 2 年 11 月 26 日～27日	和歌山県	和歌山県民文化会館
17	平成 3 年 11 月 8 日～9日	兵庫県	姫路市文化センター
18	平成 4 年 10 月 15 日～16日	京都府	国立京都国際会館
19	平成 5 年 11 月 4 日～5日	大阪市	大阪市中央公会堂
20	平成 6 年 10 月 27 日～28日	大阪府	東大阪市立市民会館
21	平成 7 年 11 月 25 日	神戸市	神戸文化ホール
22	平成 8 年 10 月 21 日	京都市	京都会館
23	平成 9 年 11 月 13 日	滋賀県	大津市民会館
24	平成 10 年 11 月 6 日	奈良県	橿原市文化会館
25	平成 11 年 11 月 16 日	大阪府	大阪厚生年金会館
26	平成 12 年 11 月 9 日	和歌山県	和歌山県民文化会館
27	平成 13 年 11 月 15 日	兵庫県	尼崎総合文化センター
28	平成 14 年 10 月 31 日	京都府	国立京都国際会館
29	平成 15 年 11 月 6 日	大阪市	大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル
30	平成 16 年 11 月 1 日	神戸市	ポートピアホール
31	平成 17 年 11 月 11 日	京都市	京都市勧業館、京都会館
32	平成 18 年 11 月 8 日	奈良県	奈良県文化会館、新公会堂他
次期研究大会開催地 (予定) 平成 19 年度 滋賀県 平成 20 年度 大阪府			

近畿ブロックPTA協議会会則

昭和31年10月	1日	制定
昭和46年12月	6日	改定
昭和49年	9月	2日改定
昭和50年	7月22日	改定
昭和56年	7月	7日改定
昭和60年	7月	5日改定
昭和61年	6月16日	改定
平成元年	6月22日	改定
平成4年	6月26日	改正
平成5年	6月25日	改正
平成8年	6月24日	改正
平成9年	6月24日	改正
平成11年	6月25日	改正
平成14年	6月17日	改正
平成17年	6月17日	改正

(名称および事務所)

第1条 この会は近畿ブロックPTA協議会と称し事務所を会長所属のPTA協議会事務局内に置く。

(組織)

第2条 この会は近畿2府4県PTA協議会および政令指定都市PTA協議会をもって組織する。

(目的)

第3条 この会は各加盟協議会間の連絡を密にし、その健全な発展を図ると共に教育の振興に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 この会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 研究会、研修会の開催。
- (2) 各加盟協議会間の情報交換。
- (3) 教育の発展に必要な調査研究。
- (4) その他この会の目的達成に必要な事業。

(役員構成および任期)

第5条 この会に次に役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 会計 1名 (会長所属協議会役員中より)
- (4) 理事 18名
- (5) 会計監事 2名 (理事を除く)

役員の任期は1ヵ年とする。ただし再選を妨げない。

(役員の選出)

第6条 会長、副会長は理事の互選により総会で決定する。

会計は会長所属協議会の推薦をにより総会で決定する。

理事は各加盟協議会会長を含む男女各1名とする。

会計監査は総会において代表委員中より選出する。

(役員の任務)

第7条 会長はこの会を代表し、会務を総括し、すべての会議を招集しその議長となる。

副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

会計は会計事務を処理する。

(顧問)

第 8 条 この会に顧問をおくことができる。

(平成 10 年度総会申し合わせ事項・会長経験者・任期 3 年)

(1) 顧問はこの会の諮問に応じる。

(会議)

第 9 条 この会の会議は総会および理事会とする。

(1) 総会は最高決議機関とし、役員および加盟協議会代表委員 3 名をもって構成し、年 1 回開催しこの会の重要事項を審議する。ただし会長が必要と認めた時は臨時に開催することができる。

(2) 理事会は、理事および会計をもって構成し、この会の会務を審議し実施にあたる。

(議事)

第 10 条 会議の議事はこの会則に特別の定めのある場合を除き構成員の 2 分の 1 以上の出席によって成立し、議決は出席者の過半数の同意を要するものとし、可否同数のときは議長が決するところとする。

(特別委員)

第 11 条 本会に特別委員を置くことができる。特別委員は各加盟協議会の理事ならびに代表委員の中から選出された委員で構成し、本会の目的に沿った研修を行う。特別委員の設置は理事会で決定する。

(社団法人日本 P T A 全国協議会役員の推薦)

第 12 条 この会より (社) 日本 P T A 全国協議会 (以下「日 P」という。) 役員に送る役員は次により理事会で推薦し、総会において承認を得る。

(1) 日 P 理事は、当年度の近畿ブロック P T A 協議会の会長および副会長とする。

(2) 日 P 副会長は、一号により理事に推薦された者の互選による。

(3) 日 P 監事は、当年度の前々年度の近畿ブロック P T A 協議会会長であった協議会または連合会の当年度会長とする。

日 P の役員に推薦された者の任期は、日 P の定款による。

(会計年度)

第 13 条 この会の会計年度は毎年 6 月 1 日に始まり翌年 5 月末日に終わる。

(収入および分担金)

第 14 条 この会の経費は分担金、寄付金その他の収入をもってあてる。

分担金は各協議会あたり年 50,000 円とする。

(事務局職員)

第 15 条 各加盟協議会義務局長は、総会および理事会に出席して意見を述べることができる。

(会則の改廃)

第 16 条 この会則は総会において出席者の 3 分の 2 以上の賛成がなければ改廃することができない。



奈良県大会実行委員・運営スタッフ



○ 奈良県実行委員会

【大会長】	藤野良次	大和郡山市 P
【実行委員長】	玉井久勝	吉野郡（東） P
【部会長】	岩本寿成	（全体会部会） 奈良市 P
	岡本真寿美	（分科会部会） 磯城郡 P
	日高初美	（総括会部会） 香芝市 P
	黒田尚志	（交流会部会） 橿原市 P
	西川隆清	（輸送部会） 生駒郡 P
	玉井久勝	（広報部会） 吉野郡（東） P
【顧問】	矢和多忠一	奈良県教育長
	中尾勝二	奈良市教育長
【参与】	西川隆彰	奈良県生涯学習課課長
	中室雄俊	奈良市教育総務部長
	阿部義輝	奈良県中学校長会会長
	森井恵治	奈良県小学校長会会長
	川村富子	奈良県国公立幼稚園長会会長
	田中政文	奈良県教頭会会長
	国中憲治	奈良県 PTA 協議会相談役
	神田加津代	奈良県 PTA 協議会相談役
	奥山博康	奈良県 PTA 協議会相談役
	菅野泰功	奈良県 PTA 協議会相談役
	岩城明	奈良県 PTA 協議会相談役
	池端雅世	奈良県 PTA 協議会顧問
	増田磨佐彦	平成 16・17 年度実行委員長
【委員】	上田和男	奈良市 P
	中村久男	大和高田市 P
	谷本正純	大和高田市 P
	吉川敬代	大和高田市 P
	澤田昌憲	大和郡山市 P
	小笠原勇	大和郡山市 P
	増田磨佐彦	天理市 P
	中野雅晴	天理市 P
	川畑善英	天理市 P
	井岡省吾	桜井市 P
	青山順	桜井市 P
	吉田和正	五條市 P
	芝田真一	五條市 P
	藤井洋子	五條市 P
	丸山和豪	御所市 P
	松嶋秀典	御所市 P
	春見祥司	生駒市 P
	福中眞美	生駒市 P
	辻村美智子	葛城市 P
	松井操	葛城市 P
	松田克也	宇陀市 P

今 西 一 史	山辺郡 P
山 中 孝	山辺郡 P
古 川 作奈江	磯城郡 P
田部井 紀美子	磯城郡 P
戸 田 進 康	高市郡 P
山 内 徹 裕	高市郡 P
西 村 勉	宇陀郡 P
田 合 豪	宇陀郡 P
大 前 益 己	北葛城郡 P
音 田 美 幸	北葛城郡 P
榊 本 靖	吉野郡（西） P
藤 木 洋 子	幼稚園長会
岸 田 泰 三	小学校長会
島 壮二郎	中学校長会
大 橋 勉	平成 17 年度中学校長会

【事 務 局】	橋 本 佳壽夫	局長
	田部井 紀美子	磯城郡 P
	武 田 未 希	局員

○ 全 体 会 （岩本寿成）

三ツ木桂子、青木たかみ、岡田博義、森 優子、竹本明子、東 洋子、山崎 誠、新開智恵子
 松原成和、早瀬三千恵、濱名みちこ、今中良紀、仲松ルリ、稲野玲子、牧瀬さゆり、安達和子
 勝間孝一、前田玲子、竹内康子、佐々木秀貴、阿波谷陽子、吉川由紀子、増田優子、橋本久仁子
 佐野幸子、河口英子、水上明子、栗路智子、艸香春治、南出藤作、往西佳世子、井口和美
 岡林光代、今里すみ子、中田千晶、鈴木裕恵、佐古有起、宮岡直美、藤井洋子、大谷晶子
 中川和恵、符阪雅世、杉谷三恵、大西祐子、中村友子、鎌塚いずみ、渡邊聡子、村上淑美
 山口セツ子、大西エリ、米田正子、小林新一、山本浩文、相賀登志子、宮城執子 上田和男

以上 奈良市 PTA

春見祥司、福中眞美阿部久美子、田中年男、大谷英明、恵比須幹夫、崎山良子、井上重樹
 上野泰昭、万木さとよ、湯浅裕策、甫田裕佳理、辰巳千代子、望月智英佳、加藤靖代、大植康弘
 出口隆司、大橋政広、小寺美佐子糸井奈保美、山中 孝、中窪寿弥、奥村嘉三、森本聡子
 中島玲子、馬場佳容子、菊川友美、小西知永、谷村知佳子、畑中正恵、古川綾子、河合真由美
 岡田智子、本田美和、三野和穂、太田友美、樫原ゆみ、樋口篤史、西岡知一、我如古律子
 稲留美由紀、上武敏一、長谷真由美、南條優子、貝原理恵子、谷 美穂子、上村敦男、福田智子
 西本亜樹子、中川雅宏、今田資子、越智美恵子、埴田雅子、江辺高也、室山昭子、垣内美香
 高澤慶子、富 満子、松本順子、井上統人、宇野雅崇、渡邊千江美、大谷尚弘、宮前幸司
 大槻健治、上野睦弘、柳 貴男、矢野エリ、尾山佳史、福田泰子、河路千雅子、白岩千晶
 速水直文、角野美佐子、春山京子、北本史江、大島眞規、吉田利一、熊野浩史、杉山 充
 中田利恵、西本直子、谷野徳子、潤井成美、今西真理子、中谷嘉孝、野村淑江、岸 里実
 増谷幸子、山本幸子、迎谷律子、酒井洋子、崎山寿美代、古家由美子、遠藤清美

以上 生駒市 PTA・山辺郡 PTA

西村佳之、出口幸司、中野雅晴、岡本純一、中村陽一、片川知巳、森口浩幸、上田隆司
 平岩俊三、西田充広、野口 修、鈴木 等、源田直司、岡田佐代子、皿田悦子、金井 篤
 吉川 聡、鳥海貴子、太田 香、花本美智子、奥村真理、濱本マリ子、西 沙織、小川恵子
 吉川恭子、吉村智恵、巽 由賀里、岡本典子、松井住江、堀内典代、飯田千恵、坂東ゆり
 吉村貴世、堀尾昌代、城本眞美、川崎香織、矢田紫真子、木村典子、吉岡智代子、西原育代
 梅田幸恵、小西初恵、大江志緒里、野村昌代、木村明日香、高岡訓子、東 眞樹子、立部千秋
 増田磨佐彦

以上天理市 PTA

○ 分科会部会 (岡本真寿美)

【第1分科会】

大前益己、吉田真弓、西川有美、豊田 恵、栗巢久美子、森川美千代、向山真子、小川周子
河添 純、池田陽子、岡波洋子、丸山貴美子、福井直美、坂田典子、暁 公美、綿谷弓美
土井美恵子、松井仁美、池山満見子、吉田真佐子、池部美加、鈴木加世、小林眞由美、松井由香
池田宗弘、巽 浩彰 以上北葛城郡 PTA

【第2分科会】

古川作奈江、木村和美、山上美恵子、原 まゆみ、若林健一、吉村訓子、森川則子、具島美香
若井久美子、浅村真弓、堀内佐起子、池田彰友、吉川勝子、村田洋子、上辻久容、安原順子
河村さかえ、三国美和子、松原京美、森本加津美、佐賀祥子、永田徳子、西村三千代、桐井恵子
以上 磯城郡 PTA
藤原弥栄、神谷雅子、的場いずみ、奥田光治、小南みゆき、尾上弘記、岸本貴美子、山内徹裕
以上 高市郡 PTA

【第3分科会】

中村久男、山田員巨、井学敦子、森井美貴子、榎 雅子、安田千秋、竹内正美、守口貴世
堀内眞規、徳井もとえ、大畑初美、田中善美、水野 仁、村上和久、森本向順、早川泰史
辻井公祐、安川真理子、若林美樹、江口由紀、森本麻子、秦、陽笑、東 明弘、豊福泰子
恋川孝枝、桑 和弘、瀬川安広 以上大和高田市 PTA

【第4分科会】

丸山和豪、丸山まゆみ、東川 裕、六田誠良、木村広子、西村淳子、花戸 篤、片上裕之
大瀬良はるみ、森戸三千代、寺下忠克、松嶋秀典、松嶋美和、前川美由紀、家興裕香、田中由美
上田喜彦 以上 御所市 PTA
岩佐誠子、坂口直美、森本一美、吉田伸子、西山京子、畑野礼子、前村美和、草野幸子
米田知昭、佐々木将人、荒張美幸、松井 操、辻村美智子 以上 葛城市 PTA

【第5分科会】

井岡省吾、岩崎直子、堀井清孝、山本園子、河井康晴、浦西和代、今村年秀、堀田順子
東 俊克、岡田充浩、伊藤浩好、西村佳世、東田芳栄、西田全伸 以上 桜井市 PTA
石井明子、松室京子、窪田千智、峰畑忠郎、吉田泰久、大原一成、有田 佐、北森基之
以上 宇陀市 PTA
西村 勉、土肥和久、吉田茂一、坂口明男、大平和幸 以上 宇陀郡 PTA

【第6分科会】

澤田昌徳、小笠原 勇、穴田政弘、粉家英雄、小川妙子、小倉直人、上田佳徳、石田忠弘
小篠一之、加藤健一、井上武士、植田 猛、乾 政史、中尾和久、八尾伊知郎、永澤拓志
取田博善、金澤秀典、原 明彦、森田幸治、中野淳司、藪 宇輝、伊東信子、藤谷仁志
和田広伸、柿本純子、今西高弘、小島善治、石間久雄、榊田善夫、竹田典央、磯野和子
磯野真理、馬場珠代、乾 和子、山中孝仁、松井久美子、関田裕美、小松菜穂子
以上 大和郡山市 PTA

○ 総括会部会 (日高初美)

中島尚美、阪口美佐、川田 裕、太田 哲、山下真弘、井村賢次、森本啓子、黒川晴美、神田 明
池浦幹人、伊藤香里、堀内里恵、里松寿子、谷脇浩司、藤田 武、吉川美奈子
以上 香芝市 PTA

○ 交流会部会 (黒田尚志)

吉村雅史、安田和弘、奥 美奈子、渡辺知子、岩崎由美子、木本藤志子、高橋裕美子
山口勝啓、米田昌司、田辺 忍、川並美佐枝、吉川洋子、村上章余、川端悦夫、若林忠良
森村利和、江藤容子、辻 太美子、殿 信子、福井浩司、山中美津枝、新子久美子 藤巻とし子
竹中直美、大沢紀代美、下鍵恵子、青木光治、堂浦秀樹、光井尚美、吉田浩巳、神森智章
吉田英知、森下嘉博、落合和人、吉井和代、山崎陽子、伊墻浩子、岸田康治、上西 隆
川本吉成、吉川久代、吉川正恵、中野和加子、吉田仁希子、里路良江、川合尚美、山田真理
植田なおみ、中前浩之、伊藤良弘、藤本政功、上田純代、窪田貞俊、平野千恵子、近藤正暢
小島愉美子 以上 樺原市 PTA

○ 広報部会 (玉井久勝)

芝田真一、吉田和正 以上 五條市 PTA
榊本 靖 以上 十津川村 PTA

○ 輸送部会 (西川隆清)

筒井誠司、青木隆一、石原俊子、徳庄まゆみ、藤本千穂、田口哲治、紀 良治、久保由子
上田京子、井岡裕子、三宅俊子、栗本理恵、前田久美子、小林美香、伊藤くに子、城野博哉
杉山倫子、下店昌代、大塚いずみ、廣 雅美、橘 和成、細井浩美、坪田佳子、芝崎善彦
森岡芳子、為国涼子、辰巳真奈美、松岡靖子、大西百合子、荻野正子、大川 恵、窪内真一
沖野雄三、宮本美枝、山田直子、露野晃生、植田一史、島野いずみ、黒川立也、塩原仁美
森村奈津代、木村純子、西川直子、榎実千代、柳原 智、森田善友、西田陽至、乾 妙子
須川亜紀、佐々木千里、濱川 司、上村智菜美、中島久江、中谷真利子 以上 生駒郡 PTA